

決算説明資料

※予測に関する注意事項

・本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて作成しておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。



2017年4月
株式会社タダノ

- 【会社名】** 株式会社タダノ(1948年8月24日設立)創業者 多田野 益雄
1955年国内初の油圧式トラッククレーンを開発
- 【代表者】** 代表取締役社長(CEO)多田野 宏一
- 【本社】** 香川県高松市新田町甲34番地
- 【主な事業】** 建設用クレーン、車両搭載型クレーン、高所作業車の製造販売
- 【事業所】** 東京事務所[墨田区]、高松工場[高松市]、志度工場[さぬき市]、多度津工場[多度津町]、千葉工場[千葉市]
- 【拠点】** (日本)10支店、23営業所 (海外)北京事務所[中国]、中東事務所[UAE]
- 【資本金】** 13,021百万円 **【株式】**発行済 129百万株 株主数 8,294人(17年3月末)
- 【売上高】** 179,676百万円(16年度)
- 【従業員数】** 連結 3,346人、単独 1,433人(17年3月末)
- 【関係会社】** (日本)子会社 12社 (海外)子会社 18社、関連会社 2社
- (株)タダノアイメス タダノ・ファウンGmbH、タダノ・ファウン・シュタールバウGmbH [独]
- (株)タダノアイレック タダノ・ユークー Ltd [英]
- (株)タダノエステック タダノ・フランス SAS [仏]
- (株)タダノエンジニアリング タダノ・アメリカ・ホールディングスInc.、タダノ・アメリカCorp.、タダノ・マンティスCorp. [米]
- (株)タダノテクノ東日本 タダノ・パナマS.A. [パナマ]
- (株)タダノテクノ西日本 タダノ・ブラジル・エキパメントス・デ・エレヴァサオンLtda. [ブラジル]
- 太平機工(株) 京城多田野(北京)液圧機器有限公司、多田野(北京)科貿有限公司 [中国]
- 日通重機サービス(株) 韓国多田野株式会社 [韓国]
- (株)タダノ教習センター タダノ・タイランドCo.,Ltd.、タダノ・タイ・パーツ・アンド・サービスCo.,Ltd. [タイ]
- (株)タダノ物流 タダノ・アジアPte Ltd. [シンガポール]
- (株)タダノシステムズ タダノ・インドIA Pvt.Ltd. [インド]
- (株)タダノビジネスサポート タダノ・オセアニアPty Ltd、エーエムエル・イクイップメントPty Ltd [オーストラリア]
- 北起多田野(北京)起重機有限公司 [中国]
台湾多田野股份有限公司 [台湾]

(単位:百万円)

	15年度		16年度		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	209,426	100.0%	179,676	100.0%	-14.2%
営業利益	31,062	14.8%	18,484	10.3%	-40.5%
経常利益	30,680	14.6%	18,490	10.3%	-39.7%
親会社株主 当期純利益	19,621	9.4%	11,881	6.6%	-39.4%

1株当たり配当金	中間	13.00円	中間	13.00円
	期末	13.00円	期末	13.00円
	年間	26.00円	年間	26.00円

	15年度	16年度
設備投資額	4,572百万円	6,030百万円
減価償却費	2,793百万円	3,113百万円
為替レート(USD)	121.05円	108.84円
為替レート(EUR)	134.31円	120.33円

※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

※為替レートは1-12月期中平均レート(海外子会社12月決算のため)

【16年度の経営方針】

- ①コアバリューの追求「安全・品質・効率」
- ②中期経営計画(14-16)最終年度の仕上げと次期中計(17-19)の検討
- ③市場急落・競争激化への備えと対応

◆6年振りの減収減益

- ・建設用クレーン需要の更なる減少
- ・為替の影響

◆日本向け売上高、海外向け売上高ともに減少

- ⇒日本向け売上高 1,049億円 → 1,022億(△2.6%)
建設用クレーンは減少、車両搭載型クレーンは微減、高所作業車は増加。
- ⇒海外向け売上高 1,044億円 → 774億(△25.9%)
需要の更なる減少、円高基調。

◆海外売上高比率 49.9% → 43.1%

◆利益は減少

営業利益	310億円	→	184億円
経常利益	306億円	→	184億円
当期純利益	196億円	→	118億円

損益計算書(対前期比較)



(単位:百万円)

	15年度		16年度		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	209,426	100.0%	179,676	100.0%	-29,749
売上原価	146,298	69.9%	129,682	72.2%	-16,615
割賦販売利益	-91	-0.0%	54	0.0%	146
売上総利益	63,036	30.1%	50,048	27.9%	-12,987
販管費	31,973	15.3%	31,564	17.6%	-408
営業利益	31,062	14.8%	18,484	10.3%	-12,578
営業外損益	-382	-0.2%	6	0.0%	388
経常利益	30,680	14.6%	18,490	10.3%	-12,190
特別損益	-563	-0.3%	-1,147	-0.6%	-584
税引前当期純利益	30,117	14.4%	17,342	9.7%	-12,774
法人税等	10,608	5.1%	5,401	3.0%	-5,207
非支配株主当期純利益	-113	-0.1%	58	0.0%	171
親会社株主当期純利益	19,621	9.4%	11,881	6.6%	-7,739

【増減のポイント】

◆売上原価率 69.9% → 72.2%

・日本で新モデル販売、海外で価格維持とシェアアップに努めるも、売上減少・為替影響により売上原価率は、前期比2.3%ポイント悪化。

◆販管費 408百万円減少

・変動費減少 △ 363百万円
 ・人件費減少 △ 224百万円
 ・その他諸経費増加 +179百万円

◆営業外損益

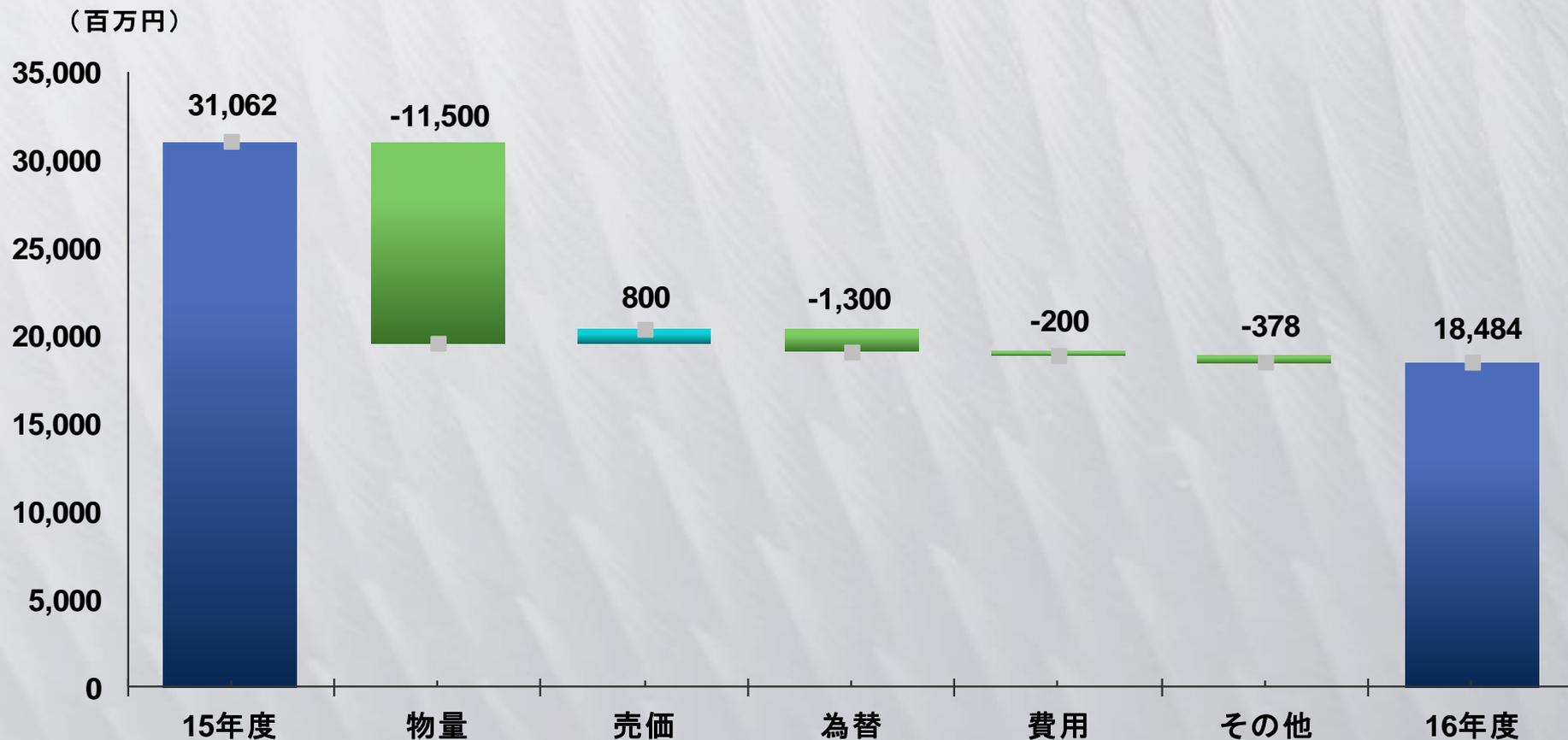
・営業外収益 623百万円 → 758百万円
 ・営業外費用 1,006百万円 → 752百万円

◆特別損益

・特別利益 517百万円 → 150百万円
 ・特別損失 1,080百万円 → 1,298百万円
 投資有価証券売却益 105百万円
 関係会社出資金評価損 973百万円
 減損損失 199百万円

損益計算書(営業利益の増減要因)

売上減少や為替等の影響により、営業利益は125億円の減少。



貸借対照表(対前期末比較)

(単位:百万円)

	15年度末		16年度末		比較 増減
	金額	比率	金額	比率	
手許資金	73,618	31.3%	68,745	29.9%	-4,873
売上債権	51,143	21.7%	48,717	21.2%	-2,425
たな卸資産	53,021	22.5%	54,877	23.9%	1,855
その他	7,699	3.3%	5,624	2.4%	-2,075
流動資産計	185,483	78.8%	177,965	77.4%	-7,518
有形固定資産	38,982	16.6%	41,183	18.0%	2,201
無形固定資産	1,187	0.5%	1,181	0.5%	-6
投資その他の資産	9,747	4.1%	9,469	4.1%	-277
固定資産計	49,917	21.2%	51,834	22.6%	1,917
資産合計	235,400	100.0%	229,799	100.0%	-5,600

仕入債務	35,845	15.2%	26,080	11.3%	-9,764
有利子負債	36,869	15.7%	37,235	16.3%	365
その他	27,889	11.8%	23,934	10.4%	-3,954
負債計	100,603	42.7%	87,250	38.0%	-13,353
純資産計	134,796	57.3%	142,549	62.0%	7,752
負債・純資産計	235,400	100.0%	229,799	100.0%	-5,600

【増減のポイント】

◆売上債権は減少

511億円 → 487億円

⇒売上債権回転期間は悪化

(15年度 89.1日 → 16年度 99.0日)

◆たな卸資産は増加

530億円 → 548億円

(548億円のうちTFG分164億円)

⇒たな卸資産回転期間は悪化

(15年度 92.4日 → 16年度 111.5日)

◆有利子負債は増加

368億円 → 372億円

⇒短期 7億円減少 長期 11億円増加

◆ROA(営業利益ベース)

13.5% → 7.9%

◆ROE

15.4% → 8.6%

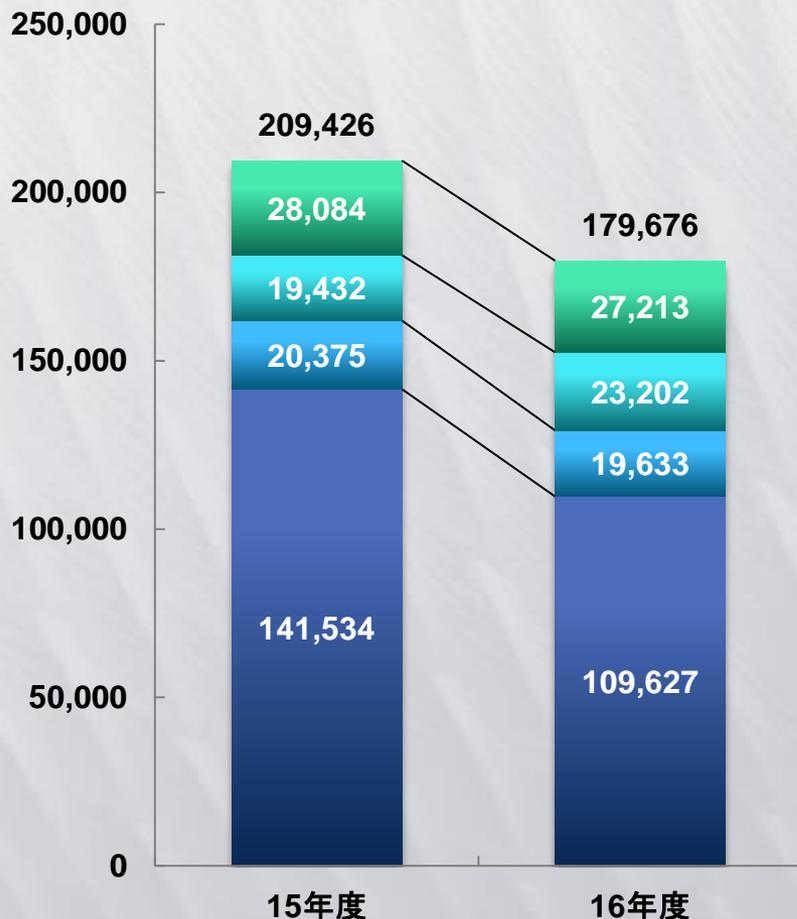
キャッシュ・フローの概要

投資活動キャッシュ・フローの減少により、総合キャッシュ・フローは48億円の減少。



製品別売上高

(百万円) ■ 建設用クレーン ■ 車両搭載型クレーン
■ 高所作業車 ■ その他



	15年度		16年度		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
建設用クレーン	141,534	67.6%	109,627	61.0%	-31,906	-22.5%
車両搭載型クレーン	20,375	9.7%	19,633	10.9%	-741	-3.6%
高所作業車	19,432	9.3%	23,202	12.9%	3,769	19.4%
その他	28,084	13.4%	27,213	15.2%	-871	-3.1%
合計	209,426	100%	179,676	100%	-29,749	-14.2%

◆ 海外売上高比率 49.9% → 43.1%

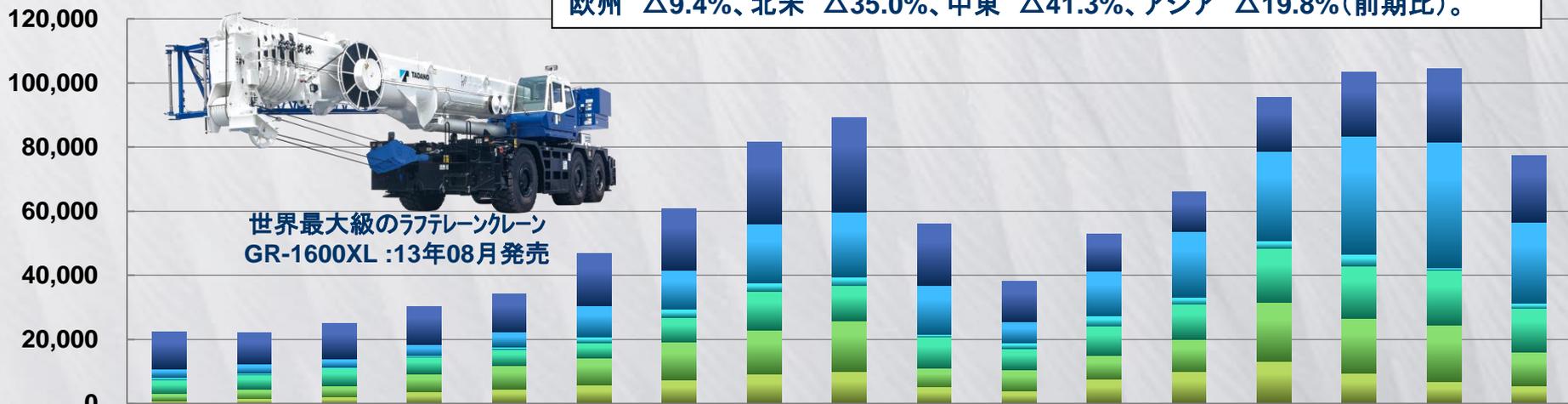
※ 建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

日本	51,104	45,017	-6,086	-11.9%
海外	90,429	64,609	-25,819	-28.6%

海外仕向地別売上高推移

過去最高の売上高であった前期より、25.9%減少した。
 欧州 △9.4%、北米 △35.0%、中東 △41.3%、アジア △19.8%(前期比)。

(百万円)



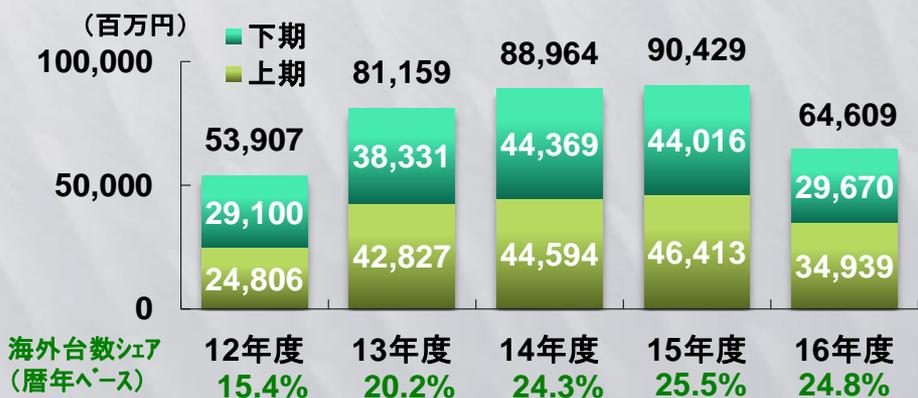
	00年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
■ 欧州	11,435	9,754	10,893	11,978	12,000	16,292	19,170	25,566	29,630	19,196	12,739	11,643	12,510	16,844	20,211	22,844	20,701
■ 北米	2,671	2,739	2,755	3,402	4,547	9,798	12,324	18,342	20,145	15,301	6,616	13,938	20,406	27,782	36,836	39,127	25,438
■ 中南米	948	586	287	457	866	1,721	2,420	2,542	2,722	887	1,691	3,012	2,201	2,449	3,475	826	1,513
■ アジア	4,225	4,368	5,362	5,185	4,888	4,749	7,861	12,069	10,954	9,680	6,603	9,190	10,982	16,923	16,383	17,083	13,694
■ 中東	2,142	3,098	3,602	5,663	7,347	8,507	11,708	13,878	15,836	5,948	6,686	7,432	10,090	18,167	17,052	17,680	10,375
■ その他	956	1,524	2,066	3,696	4,634	5,790	7,409	9,158	10,063	5,177	3,939	7,654	9,970	13,320	9,576	6,881	5,683
合計	22,379	22,072	24,968	30,384	34,285	46,859	60,894	81,557	89,354	56,191	38,277	52,872	66,160	95,487	103,535	104,444	77,406
海外売上比率	23.8%	25.0%	30.1%	31.4%	33.7%	38.8%	42.1%	46.8%	54.9%	53.9%	42.6%	46.3%	49.1%	52.5%	50.7%	49.9%	43.1%
為替レート(USD)	107.83	121.54	125.35	115.99	108.24	110.21	116.38	117.84	103.46	93.57	87.81	79.84	79.82	97.65	105.85	121.05	108.84
為替レート(EUR)	99.63	108.8	118.41	131.03	134.47	136.92	146.14	161.24	152.44	130.2	116.39	111.12	102.63	129.68	140.42	134.31	120.33

※ ・その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。
 ・為替レートは期中平均レート(海外子会社12月決算のため、通期1-12月平均)
 ・01年度以前はDMをEURに換算したものを表示しております。

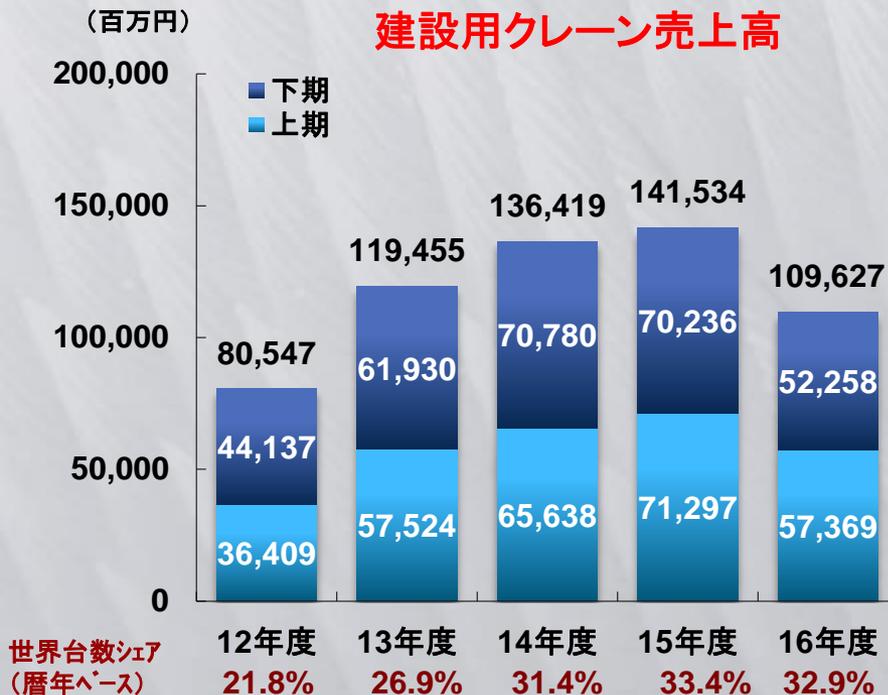
建設用クレーン売上高(日本)



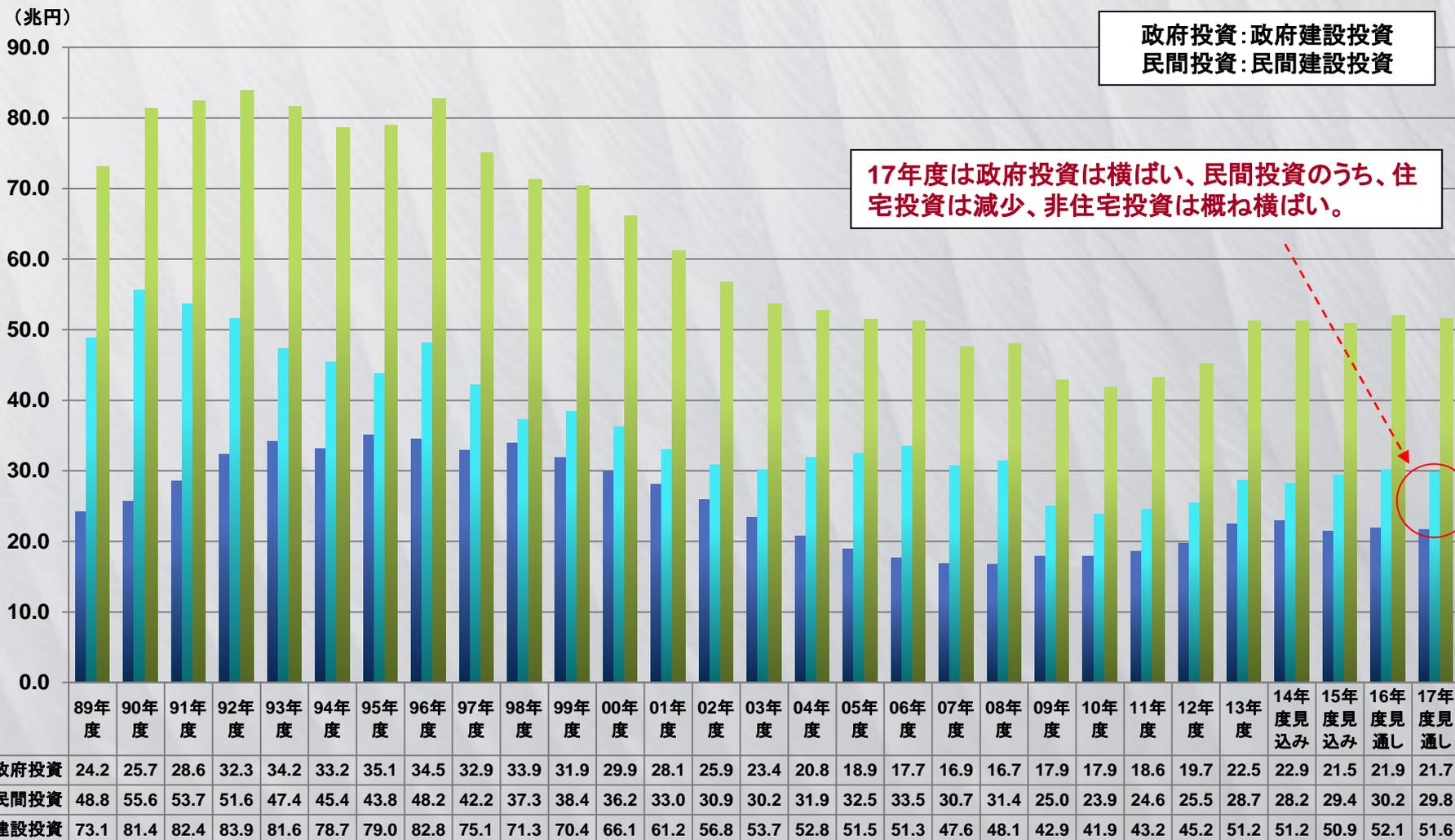
建設用クレーン売上高(海外)



建設用クレーン売上高

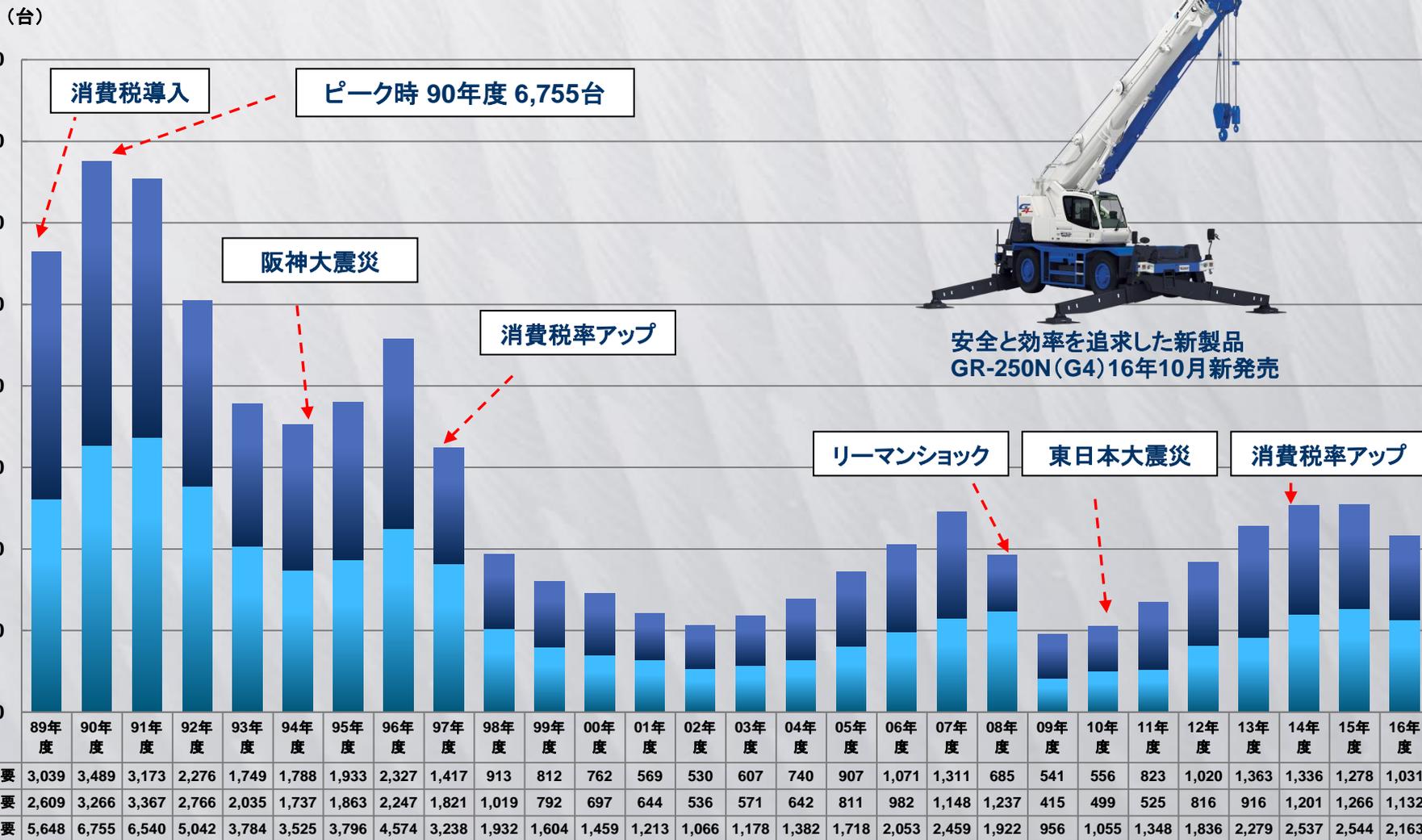


日本建設投資の推移と見通し



※ 数字はすべて名目建設投資。予測は、建設経済研究所の「建設投資の見通し」(17年4月26日発表)による。

建設用クレーンの日本総需要の推移



※ 数字は当社調べ。

日本シェア 47.8%→47.5%

油圧式建設用クレーン日本総需要 2,163台(16年度、当社調べ) 前期比15.0%減

⇒需要が減少するなか、拡販に注力。トン数シェア53.7%→46.3%。

日本向け売上高は、450億1千7百万円(前期比 88.1%)

【ラフテレーンクレーン】

- ・日本建設用クレーンの中心機種
日本総需要の93%(北米総需要の62%)
- ・市街地の建築工事に欠かせない都市型クレーン
- ・コンパクトな車体で、狭小地でも性能発揮
(前輪、後輪共にステアリング可能)
- ・クレーンの運転席と自動車の運転席が兼用
- ・日本向け13～70t吊り 6機種
海外向け12～145t吊り 8機種
- (日本海外向け共にタダノ製造、
動態管理システム搭載)
- ・日本は一般道走行
北米はトレーラー輸送



16年10月新発売

【オールテレーンクレーン】

- ・日本では都市開発、高架・橋梁工事向けの大型クレーン
日本総需要の6%
(欧州総需要の86%)
- ・遠距離走行性に加え
小回り性にも優れる。
(ステアリングに特徴)



14年04月日本向け発売

- ・日本向け100～550t吊り 6機種(独TFG製造、タダノ製造)
- ・海外向け40～400t吊り 10機種(独TFG製造)
- ・日本での一般道走行時には分解搬送が必要
欧州では分解走行不要

【トラッククレーン】

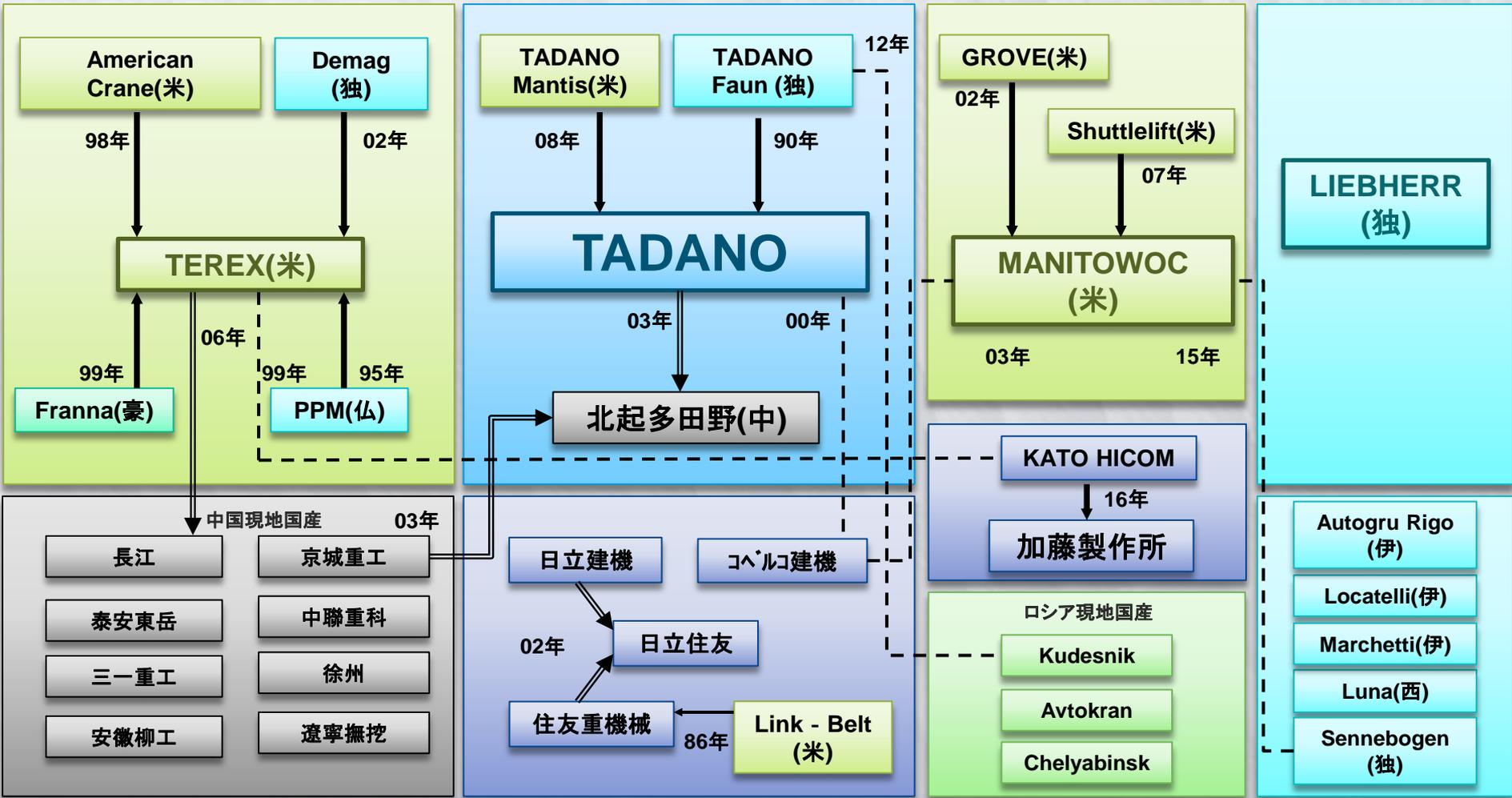
- ・ 走行性に優れたトラックに架装したクレーン。日本総需要は数台、主に海外向け
- ・ 遠距離走行性に優れる。
- ・ 日本向け20t吊り1機種（タダノで製造）
- ・ 海外向け35～80t吊り7機種（タダノ・TFG・北起多田野で製造）



【建設用クレーンの共通事項】

- ・ 関係省庁：国土交通省（自動車の規制）及び厚生労働省（クレーンの規制）
 - 排ガス規制、騒音規制の強化、走行規制（オールテレーンクレーン等大型機種の分解搬送）の取締り強化
- ・ 日本での販売先：クレーン工事業（ゼネコンの一次・二次下請で、クレーン免許を有するオペレーター付でクレーンを現場派遣）
- ・ 国土交通省直轄工事における排出ガス規制：2012年4月から第2次基準値適合車の使用原則化
⇒復興工事への影響を考慮し、規制強化を事実上延期
- ・ 日本向けRC 4次排出ガス規制
原動機出力130kW以上 2016年9月以降 130kW未満 2017年9月以降
- ・ 北米向けRC排出ガス規制 Tier4 2014年1月以降（次期規制は未定）
- ・ 欧州向けAC排出ガス規制 Euromot V 2019年1月以降

クレーン業界図(油圧式クレーンメーカー・クローラクレーンメーカー)



徐州=XCMG Xuzhou Construction Machinery Group.
 中聯重科=Zoomlion、三一重工=Sany、安徽柳工=Liugong

* 日本建設機械工業会資料より、当社作成

- > 買収を示す。(数値はその年度)
- - - - -> 提携を示す。(数値はその年度)
- =====> 出資・JVを示す。

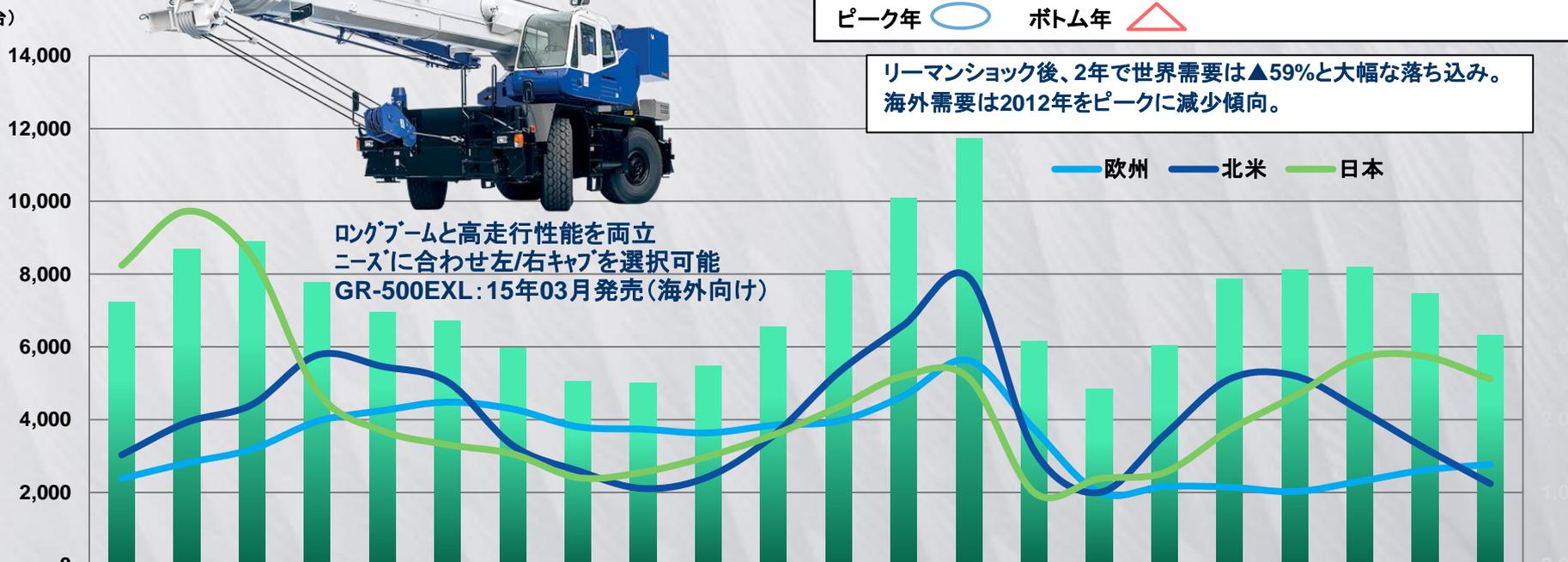
建設用クレーンの世界総需要推移(暦年ベース)



※折れ線は、各市場の需要ボトムを1とし、各年の比率推移を表す。(北米は2010年、欧州は2010年、日本は2009年)
 ピーク年 ○ ボトム年 △

リーマンショック後、2年で世界需要は▲59%と大幅な落ち込み。
 海外需要は2012年をピークに減少傾向。

ロングブームと高走行性能を両立
 ニーズに合わせ左/右キャブを選択可能
 GR-500EXL: 15年03月発売(海外向け)



	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
欧州	1,272	1,502	1,702	2,110	2,268	2,392	2,290	2,031	1,995	1,941	2,053	2,116	2,485	3,002	1,997	1,067	1,155	1,146	1,080	1,231	1,397	1,479
北米	1,372	1,777	1,998	2,614	2,472	2,281	1,490	1,175	954	1,101	1,614	2,398	2,988	3,577	1,428	905	1,621	2,316	2,355	1,930	1,453	1,014
その他	868	1,026	1,379	895	554	559	812	757	896	1,073	1,270	1,618	2,273	2,834	1,827	1,796	2,125	2,718	2,595	2,458	2,036	1,509
海外需要	3,512	4,305	5,079	5,619	5,294	5,232	4,592	3,963	3,845	4,115	4,937	6,132	7,746	9,413	5,252	3,768	4,901	6,180	6,030	5,619	4,886	4,002
日本	3,711	4,384	3,821	2,151	1,667	1,493	1,378	1,085	1,154	1,350	1,614	1,961	2,345	2,317	901	1,072	1,148	1,677	2,096	2,566	2,585	2,306
総需要	7,223	8,689	8,900	7,770	6,961	6,725	5,970	5,048	4,999	5,465	6,551	8,093	10,091	11,730	6,153	4,840	6,049	7,857	8,126	8,185	7,471	6,308

1. 海外市場はSYSTEMATIC/CEMA/FEM等の統計データより当社推計

2. 中国・ロシア国産の建設用クレーンは上記に含まず。

なお中国市場における中国国産の総需要推移は次の通り。

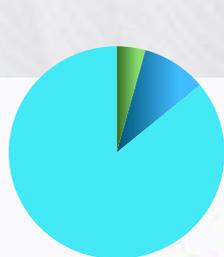
2010年約3万5千台、2011年約3万5千台、2012年約2万2千台、2013年約1万7千台、2014年約1万4千台、2015年約9千台、2016年約9千台。

建設用クレーン 地域別需要機種構成(暦年ベース)



世界シェア 33.4%→32.9% (世界総需要に中国・ロシア国産含まず) 当社 2,495台→2,073台
 油圧式建設用クレーン 世界総需要 7,471台→6,308台 (16年1-12月、当社調べ) 前期比 15.6%減

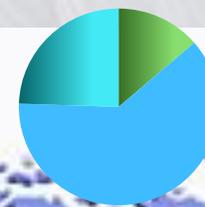
■ TC
 ■ RC
 ■ AC



欧州 総需 1,397台→1,479台(+5.9%)
 TC 64台・RC 144台・AC 1,271台
 当社 223台→205台
 (当社シェア 16.0%→13.9%)



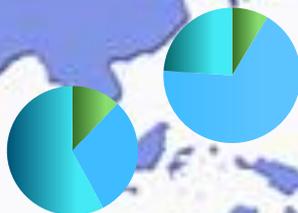
日本 総需 2,585台→2,306台(△10.8%)
 TC 11台・RC 2,167台・AC 128台
 当社 1,250台→1,079台
 (当社シェア 48.4%→46.8%)



北米 総需 1,453台→1,014台(△30.2%)
 TC 139台・RC 627台・AC 248台
 当社 374台→235台
 (当社シェア 25.7%→23.2%)



中東 総需 851台→559台(△34.3%)
 TC 70台・RC 313台・AC 176台
 当社 311台→247台
 (当社シェア 36.5%→44.2%)



その他 総需 459台→390台(△15.0%)
 TC 47台・RC 118台・AC 225台
 当社 87台→97台
 (当社シェア 19.0%→24.9%)

アジア 総需 539台→397台(△26.3%)
 TC 34台・RC 268台・AC 95台
 当社 234台→184台
 (当社シェア 43.4%→46.3%)



中南米 総需 187台→163台(△12.8%)
 TC 1台・RC 90台・AC 72台
 当社 16台→26台
 (当社シェア 8.6%→16.0%)

※TCはトラッククレーン、RCはラフテレーンクレーン、ACはオールテレーンクレーンを表す。
 数値は、当社推計。その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。台数・シェアは、前期からの変化を示す。

<欧州事業の課題>

オールテレーンクレーンのフルレンジ化、
欧州でのシェアアップと欧州域外への拡販

●欧州グループ会社の概要

【TADANO FAUN GmbH】

90年に買収、資本金:45百万EUR 当社100%出資

所在地:ドイツ国バイエルン州

事業内容:建設用クレーンの開発・製造・販売

代表者:社長 アレクサンダー・クネヒト、従業員:636人

売上高の推移:

09年:270百万EUR/381台、10年:178百万EUR/213台、11年:199百万EUR/248台、12年:268百万EUR/294台、
13年:313百万EUR/329台、14年:308百万EUR/347台、15年:304百万EUR/376台、16年:319百万EUR/363台

【TADANO FAUN Stahlbau GmbH(タノファウンシュタルbau)】

資本金:650千EUR(出資比率 TFG社 80%、アムロン10%、香西鉄工所10%)

設立:08年9月、所在地:ドイツ国バイエルン州TFG社工場内

事業内容:TFG社向け建設用クレーン部品(ジブ等)の製造

代表者:社長 ラルフ・ゾンターク、従業員:12人

【TADANO UK Ltd】

14年4月に買収、資本金:2千GBP TFG社100%出資

所在地:英国サウスヨークシャー州

事業内容:建設用クレーン等の販売・サービス

代表者:社長 トーマス・シュラム、従業員:17人

【TADANO France SAS】

16年2月に設立、資本金:50千EUR TFG社100%出資

事業内容:建設用クレーン等の販売・サービス

代表者:社長 トーマス・シュラム、従業員:4人

●オールテレーンクレーンのフルレンジ化の加速

40~400tの10機種をラインナップ

16年4月最大クラス600t(8軸車)をBauma展に出展、17年度中の販売開始を目指す



<米州事業の課題>

北米でのシェアアップと中南米の取り組み

●米州グループ会社の概要

【 TADANO America Corp. 】

資本金:2.5百万USD TAH社100%出資、所在地:米国テキサス州

事業内容:建設用クレーンの販売

代表者:社長 イゴ・シラー、従業員:79人

売上高の推移:11年 183百万USD、12年 249百万USD、13年262百万USD
14年 305百万USD、15年 285百万USD、16年206百万USD

【 TADANO MANTIS Corp. 】

08年に買収、資本金:287千USD TAH社100%出資

所在地:米国テネシー州、事業内容:油圧伸縮ブーム式クローラクレーンの製造・販売

代表者:社長 森田 士朗、従業員:136人

主要製品:伸縮ブーム式クローラクレーン(履帯式の足回りを持つキャリアに油圧伸縮するブームを持つクレーンを組み合わせた製品)。主に土木・建設工事に使われ、不整地や泥濘地、トンネル内での作業などに適する。

売上高の推移:11年 34百万USD、12年 39百万USD、13年 36百万USD
14年 30百万USD、15年 40百万USD、16年 27百万USD

【 TADANO Panama S.A. 】

資本金:10千USD 当社100%出資

所在地:パナマ共和国パナマ市、事業内容:建設用クレーン等の販売・サービス

代表者:社長 宗澤 賢二、従業員:4人

【 TADANO Brasil Equipamentos de Elevacao Ltda. 】

資本金:30百万BRL 当社100%出資

所在地:ブラジル共和国サンパウロ州、事業内容:建設用クレーン等の販売・サービス

代表者:社長 永井 啓介、従業員:10人

※TAH社は、TADANO America Holdings,Inc.の略。



15年03月新発売
タダノとの共同開発による
TMC初のラウンドブーム採用
・米国Lift and Access誌
2014年度 LE Award 受賞

＜中国事業の課題＞

コストダウン・品質向上の実現、中国国内での拡販と中国からの輸出増。
事業環境悪化につき、評価損計上。

●中国グループ会社の概要

【北起多田野(北京)起重機有限公司】

資本金:30百万USD 当社50%、北京京城重工機械有限責任公司50%出資(設立03年3月)
所在地:北京市順義区林河(北京市街から約25km北西)
事業内容:トラッククレーン等の製造販売、8~100t吊りTC 8機種
総経理 内田 秀三(当社)、従業員 110人

【多田野(北京)科貿有限公司】

資本金:5百万USD 当社100%(設立12年3月)
所在地:北京市朝陽区
事業内容:建設用クレーンの販売・サービス
総経理 金 虎林(当社)、従業員7人

【京城多田野(北京)液圧機器有限公司】 ※15年9月に清算決議

資本金:4百万USD 当社65%、三村鉄工5%、村上製作所5%、京城重工25%(設立07年9月)
所在地:北京市通州区(北京市街から約20km東)
事業内容:建機用油圧部品(バルブ、ロータリージョイント、小型シリンダ、配管等)の製造販売
総経理 村上 照幸(当社)、従業員3人

【金天利多田野(河北)金属加工有限公司】 ※17年3月に譲渡(連結対象から除外)

資本金:5.5百万USD 当社56%、アムロン5%、カワニシ5%、河北金天利34%(設立10年1月)
所在地:河北省涿州市開発区(北京市街から約60km南西)
事業内容:建機用金属加工部品(ブーム・ジブ・アウトリガ等)の製造販売
総経理 村上 照幸(当社)、従業員52人



2003年以降の海外展開 ～16社設立・買収、7拠点新設～



【2008】タダノ・ファウン・シュタールバウ 設立
【2011】タダノ・ファウン 試験用地取得
【2014】クレーンズ・ユーケー（現タダノ・ユーケー） 買収
【2016】タダノ・フランス 設立

【2008】タダノ・アメリカ・ホールディングス 設立
【2008】スパンデック（現タダノ・マンティス） 買収
【2016】タダノ・アメリカ・カナダ支店 設立

【2003】タダノ中東事務所 開設
【2017】タダノ・タイランド
中東事務所 設立

【2003】北起多田野 設立
【2007】京城多田野 設立
【2010】金天利多田野 設立→譲渡
【2012】多田野科貿 設立

【2012】タダノ・インドア 設立
【2012】タダノ・タイランド 設立
【2013】タダノ・タイ・パーツ・アンド・サービス 設立
【2016】タダノ・タイランド インドネシア事務所 設立

【2011】タダノ・ブラジル 設立
【2014】タダノ・パナマ 設立

【2010】タダノ・オセアニア 設立
【2011】同シドニー支店 開設
【2016】エーエムエル・イクイップメント 事業買収
【2017】タダノ・オセアニア メルボルン支店 設立

【カーゴクレーン】日本シェア 48.6%→50.4%

日本総需要 15,560台(16年度、当社調べ) 前期比7.7%減

⇒需要が減少するなか、拡販に注力。

売上高は、196億3千3百万円(前期比 96.4%)

- ・通常のトラックに架装した小型クレーン、貨物の積載・運搬・設置作業等が1台で可
- ・物流用途、造園業や建設業用途、トラックディーラーの間接販売
- ・小型・中型・大型トラック架装用に多数の機種 0.49t～4.9t吊り

～関係省庁～

・主に厚生労働省(クレーンの規制)

～主な販売先と特徴～

・トラックディーラー

・トラック需要に左右される傾向

(海外展開)

- ・カーゴクレーンの戦略市場向け輸出に注力。クレーン部を輸出し、現地にてトラックに架装。

15年度売上:16.8億円 → 16年度売上:14.4億円

- ・12年4月タイに製造子会社を設立し、海外展開を加速。



輸出カーゴクレーンZR560



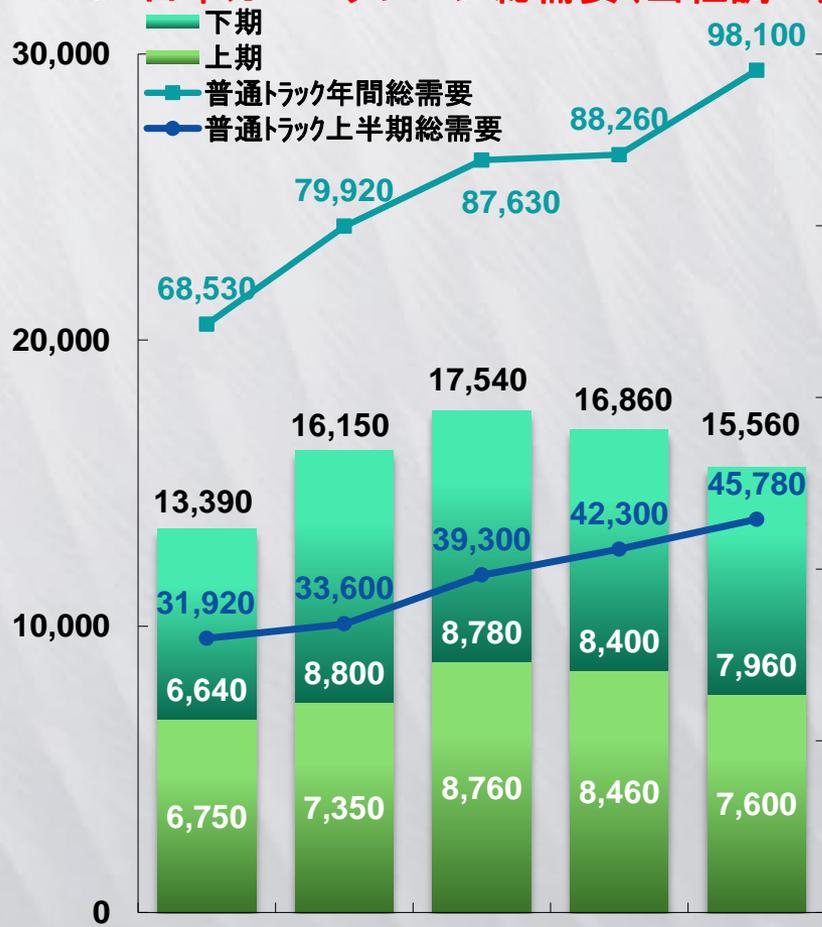
初の「アイドリングストップ」機能をオプション設定



スライドキャリア(車輛運搬車)

車両搭載型クレーン

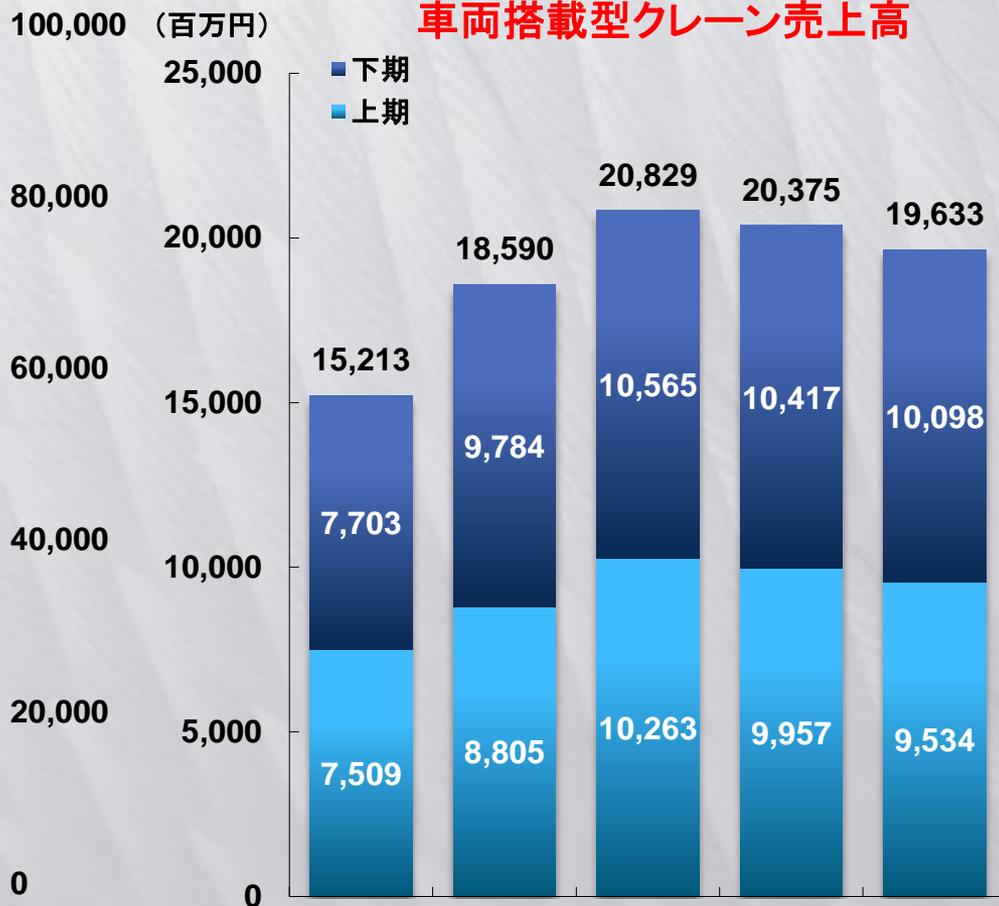
(台) **日本カーゴクレーン総需要(当社調べ)** (台)



前年同期増減率(年度ベース)

年度	増減率
12年度	+29.6%
13年度	+20.6%
14年度	+8.6%
15年度	△3.9%
16年度	△7.7%

車両搭載型クレーン売上高



日本台数シェア(年度ベース)

年度	シェア
12年度	47.4%
13年度	48.2%
14年度	49.4%
15年度	48.6%
16年度	50.4%

車両搭載型クレーン ～グローバル展開～



【 TADANO (Thailand) Co.,Ltd. 】

資本金:636百万THB 当社100%出資

設立:12年4月(13年6月操業開始)

所在地:タイ国チョンブリー県ヘマラート・イスタンシーホード工業団地内

事業内容:カーゴクレーンの製造・販売

生産能力:1,000台/年

(販売台数:14年 258台、15年 418台、16年 385台)

代表者:社長 吉田 耕三、従業員:43人

- 建設用クレーン以外の初の海外生産拠点を設立。本製造子会社設立により、海外展開をさらに加速させるとともに、収益性の向上を目指す。



タイ工場で生産のカーゴクレーン ZT1000
(16年07月新発売)

【 タイに合併で販売会社設立予定 】

- 主力市場のタイにおける車両搭載型クレーンの更なるシェアアップを図るため、当社タイ代理店(イタルタイ・インダストリアル社)との合併会社を2017年5月にタイ国バンコクに設立予定。資本金は50百万THB(当社49%)



工場内



TADANO (Thailand)

日本シェア 39.2%→36.3%

トラック搭載タイプ日本総需要 4,929台(16年度、当社調べ) 前期比19.1%増

⇒需要が増加するなか、高付加価値のスーパーデッキ・ブリッジチェッカーの拡販に注力。

売上高は、232億2百万円(前期比 119.4%)で、**過去最高**。

[トラック式]

- ・通信用 5機種、電工用 3機種
- ・一般工事用 13機種

[ホイール式] 2機種

- ### [スーパーデッキ] 5機種
- (高度な制御技術を装備)

- ### [ブリッジチェッカー] 3機種
- (高架道路や橋梁点検用)



ブリッジチェッカー BT-200

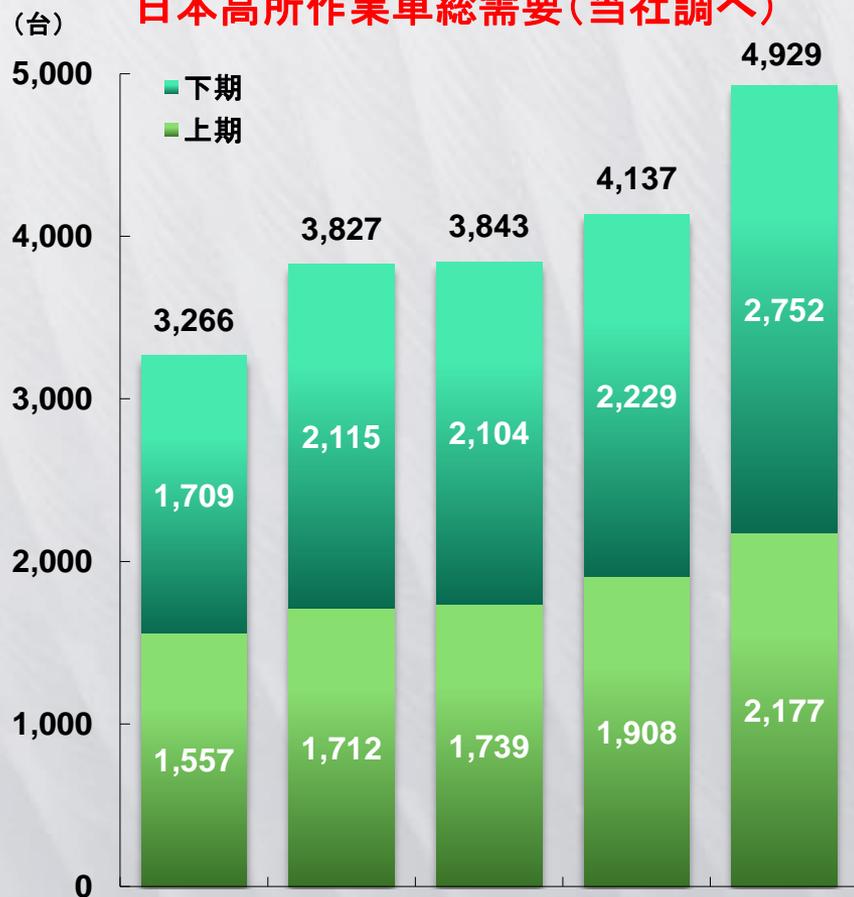
～関係省庁～

- ・主に厚生労働省(高所作業車の規制)

～主な販売先と特徴～

- ・電力電工、通信、レンタル、一般、造船、国土交通省

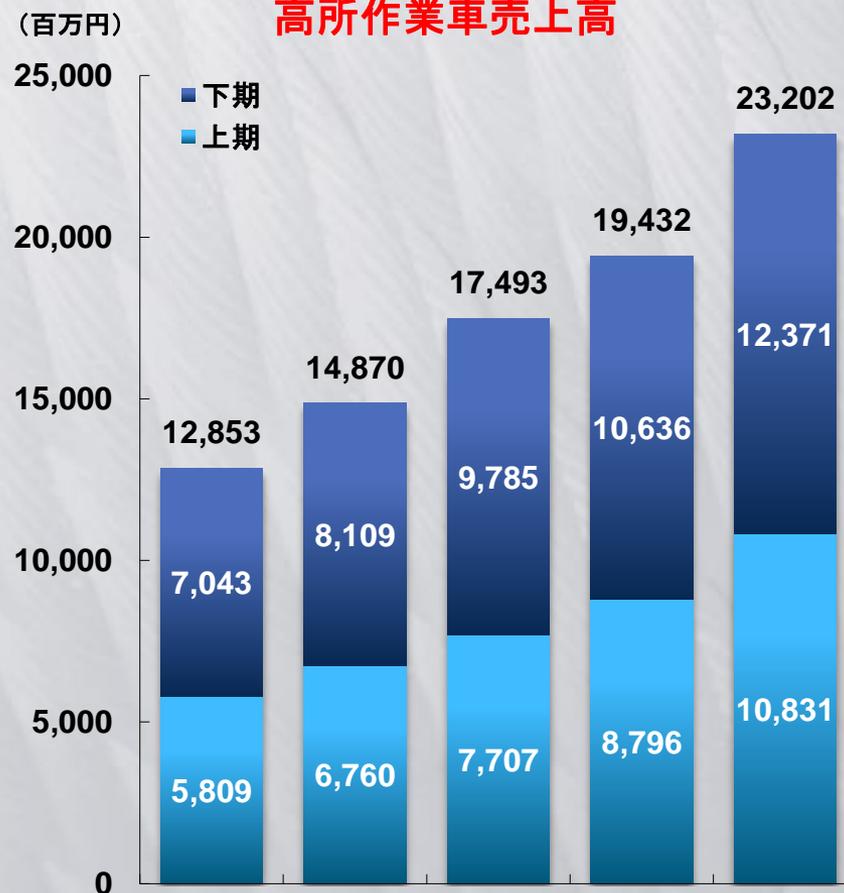
日本高所作業車総需要(当社調べ)



前年同期
増減率
(年度ベース)

年度	増減率 (%)
12年度	+13.0%
13年度	+17.2%
14年度	+0.4%
15年度	+7.7%
16年度	+19.1%

高所作業車売上高



日本台数シェア
(年度ベース)

年度	シェア (%)
12年度	38.3%
13年度	37.5%
14年度	40.2%
15年度	39.2%
16年度	36.3%

⇒ 部品、修理、中古車等のその他売上高は、272億1千3百万円(前期比 96.9%)

【中古クレーン】

- ・当期は、日本向けは増加、海外向けは横ばい。
- ・今後はグローバル化に注力。

【部品修理】

- ・当社は、修理用の部品売上を計上
(修理は、主に指定サービス工場や海外代理店
が担当し、指定サービス工場や海外代理店で売上計上)
- ・当期は、日本向けは横ばい、海外向けは減少。



オールテレーンクレーンATF400Gのブーム着脱作業例

CL-500: 13年08月発売

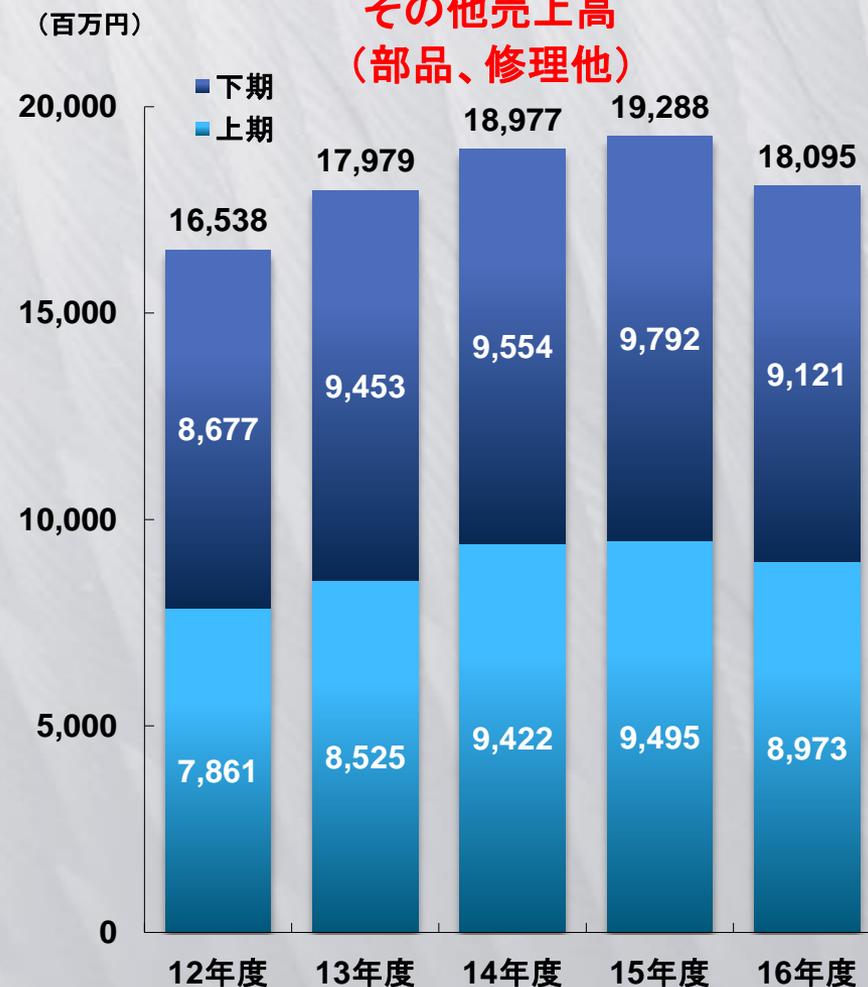
【オールテレーンクレーン着脱リフター】

- ・公道走行に際して、法令に基づき分解・搬送を必要とする日本向けオールテレーンクレーンの着脱用リフター

その他売上高 (中古クレーン、商品)



その他売上高 (部品、修理他)



(単位:百万円)

	16年度		17年度予想		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	179,676	100.0%	175,000	100.0%	-2.6%
営業利益	18,484	10.3%	17,000	9.7%	-8.0%
経常利益	18,490	10.3%	16,500	9.4%	-10.8%
親会社株主当期純利益	11,881	6.6%	11,000	6.3%	-7.4%

1株当たり配当金	中間	13.00円	中間	13.00円
	期末	13.00円	期末	13.00円
	年間	26.00円	年間	26.00円

設備投資額	6,030百万円	8,000百万円
減価償却費	3,113百万円	3,300百万円
為替レート(USD)	108.84円	110.00円
為替レート(EUR)	120.33円	120.00円

※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

【17年度の経営方針】

- ①コアバリューの追求「安全・品質・効率」
- ②中期経営計画(17-19)初年度への取り組み
- ③「赤い矢印」への集中と
「黄色い矢印」への取り組み
- ④「青い矢印」の変化への備えと
競争激化への対応

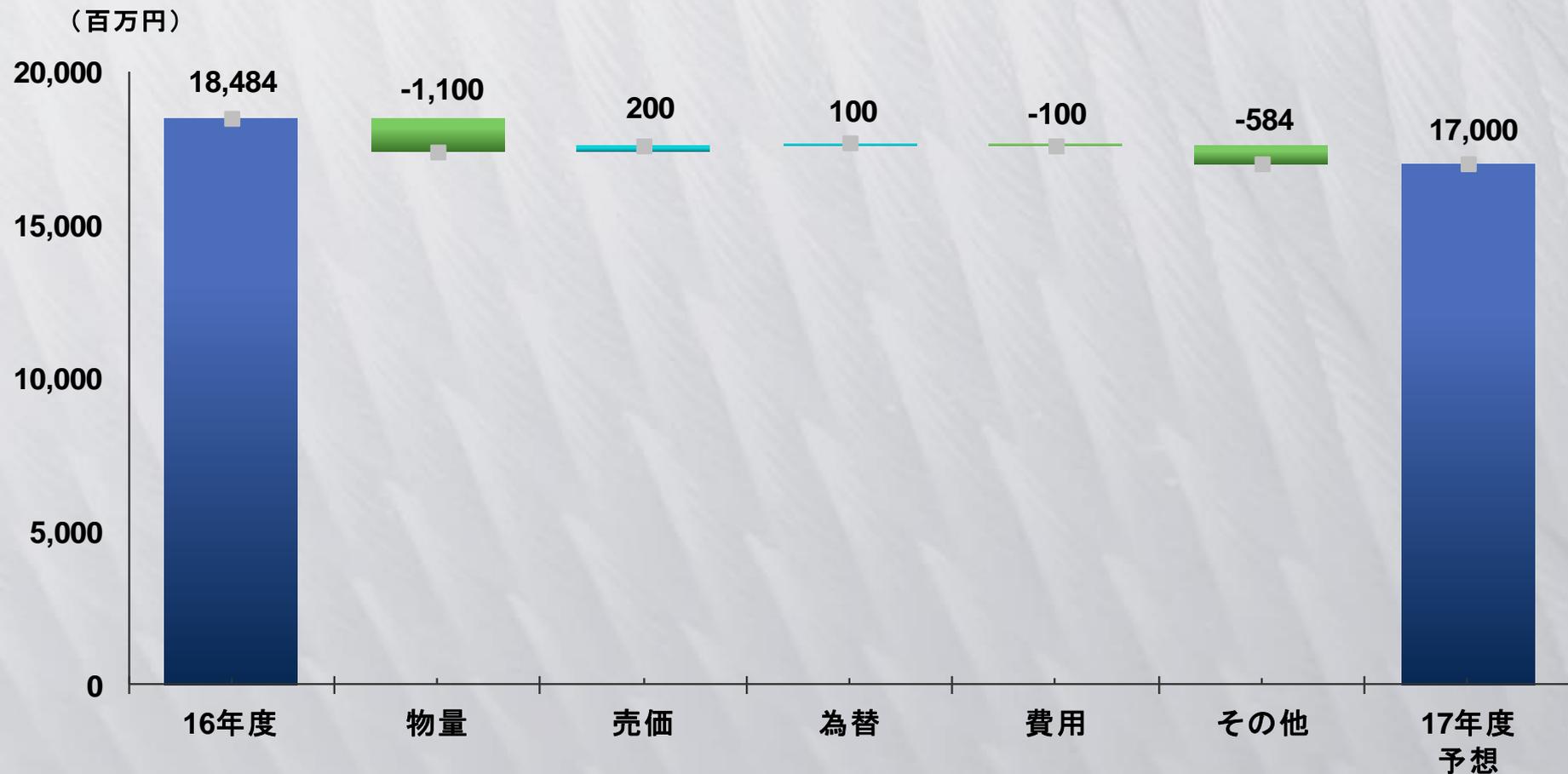
【中期経営計画(17-19)9つの戦略】

- ①市場ポジションアップ
- ②商品力強化
- ③グローバル&フレキシブルものづくりへの
取り組み
- ④感動品質、感動サービスの提供
- ⑤ライフサイクル価値の向上
- ⑥ソリューションビジネスへの取り組み
- ⑦収益力・資産効率のレベルアップ
- ⑧成長基盤の確立
- ⑨グループ&グローバル経営基盤の強化

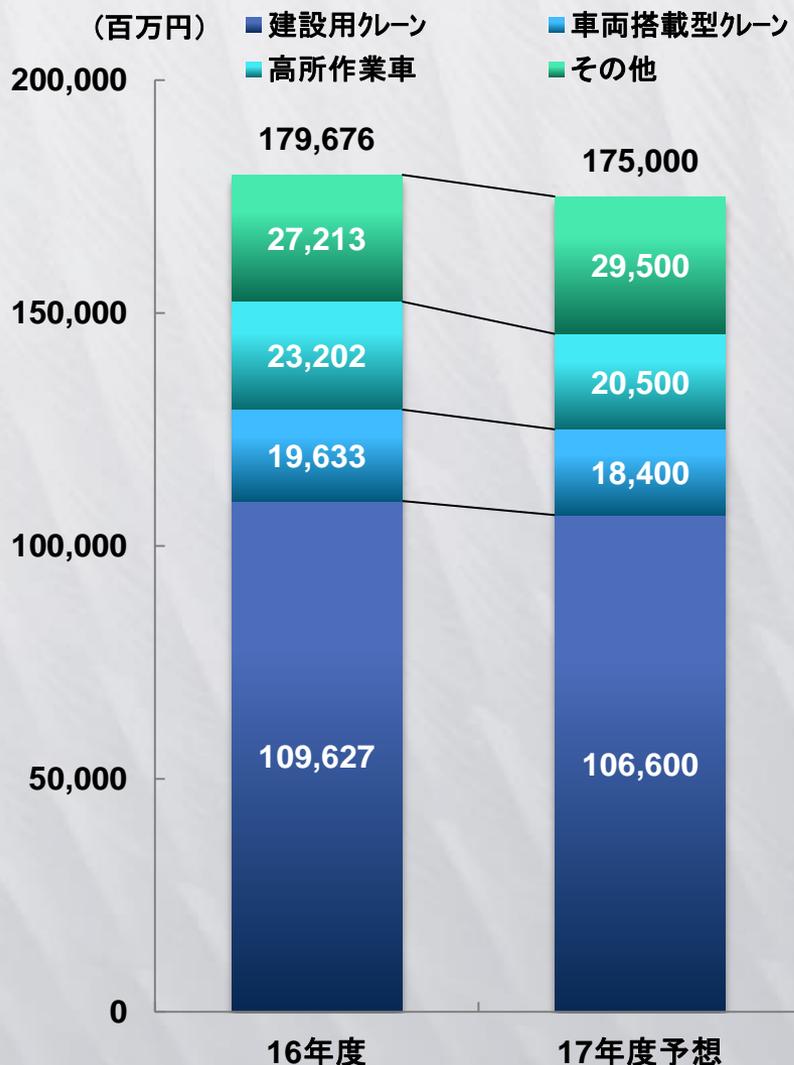
◆17年度海外売上高比率 45.4%

17年度業績予想(営業利益の増減要因)

売上減少等により、営業利益は14億円の減少。



17年度業績予想(製品別売上高)



(単位:百万円)

	16年度		17年度予想		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
建設用クレーン	109,627	61.0%	106,600	60.9%	-3,027	-2.8%
車両搭載型クレーン	19,633	10.9%	18,400	10.5%	-1,233	-6.3%
高所作業車	23,202	12.9%	20,500	11.7%	-2,702	-11.6%
その他	27,213	15.2%	29,500	16.9%	2,286	8.4%
合計	179,676	100%	175,000	100%	-4,676	-2.6%

◆海外売上高比率 43.1% → 45.4%

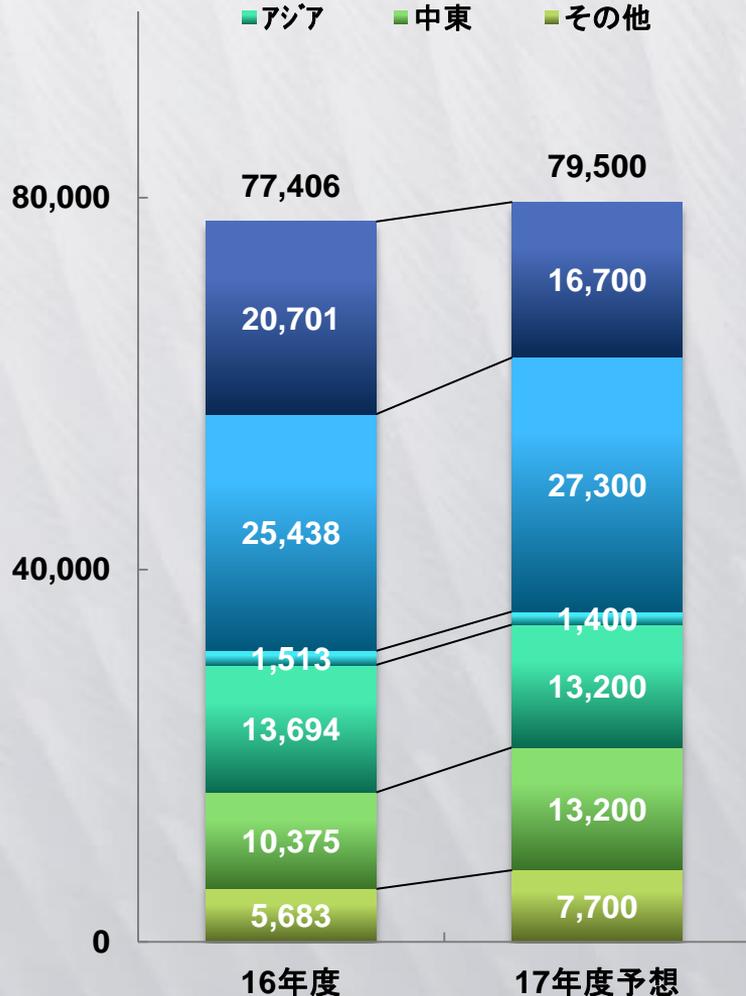
※建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

日本	45,017	43,200	-1,817	-4.0%
海外	64,609	63,400	-1,209	-1.9%

17年度業績予想(仕向地別売上高)

(百万円)

■ 欧州 ■ 北米 ■ 中南米
■ アジア ■ 中東 ■ その他



(単位:百万円)

	16年度		17年度予想		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
欧州	20,701	11.5%	16,700	9.5%	-4,001	-19.3%
北米	25,438	14.2%	27,300	15.7%	1,862	7.3%
中南米	1,513	0.8%	1,400	0.8%	-113	-7.5%
アジア	13,694	7.6%	13,200	7.5%	-494	-3.6%
中東	10,375	5.8%	13,200	7.5%	2,824	27.2%
その他	5,683	3.2%	7,700	4.4%	2,016	35.5%
小計(海外計)	77,406	43.1%	79,500	45.4%	2,093	2.7%
日本	102,270	56.9%	95,500	54.6%	-6,770	-6.6%
合計	179,676	100%	175,000	100%	-4,676	-2.6%

※左のグラフには日本を含んでおりません。
 その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。

◆香川県埋立地の工場用地取得(2016年11月)

長期目標であるLE世界No.1の達成に向け、現在の志度工場に加え、建設用クレーンを製造する新工場が必要と考え、2016年7月に高松港香西(西)地区埋立地の工業用地の売買契約を締結。11月に取得完了。2016年12月から地盤改良工事を実施中で、その後、建物建設・機械設備設置工事を経て、2018年度中の稼働を目指しております。

所在地： 香川県高松市香西北町
 面積： 約20ha(約6万坪)
 取得価格： 約24億円

新工場の構想

目的	建設用クレーンの生産
建物延床面積	第1期工事 約42千㎡ ※数年をかけて拡張する予定
投資額	第1期工事 約175億円 ※拡張後の最終投資額 約200億円
従業員数	第1期 約200人



2014年10月 撮影
(香川県提供)

※高松中心部より西へ車で10分

2008/2	タダノ・アメリカ 事務所拡張移転	
2008/10	日本市場向け製品に動態管理システム搭載(海外向けは2011/3より)	
2009/4	タダノ・アジア シンガポールのトレーニングセンター開設	
2011/1	中部部品センター開設	
2012/2	北陸部品センター開設	
2013/3	タダノテクノ東日本 本社(新木場工場) 拡張	4億円
2013/4	タダノテクノ東日本 仙台架装センター 開設	
2013/10	タダノテクノ東日本 真岡架装センター 開設	
2014/12	タダノトレーニングセンター開設	4億円
2015/6	首都圏部品センター開設	
2016/3	太平機工(北海道) 買収	
2016/5	タダノ・グローバル・パーツセンター(神戸) 開設	
2016/6	タダノテクノ東日本 佐倉工場 拡張	10億円
2016/10	タダノ架装トレーニングセンター 開設	
2016/11	豪州サービス代理店 (エーエムエル・イクイップメント) 事業買収	5億円
2016/12	タダノ・アメリカ カナダ支店 設立	
2017/3	日通重機サービス(北海道) 買収	

※金額は投資額



タダノ・グローバル・パーツセンター外観
(神戸市ポートアイランド)



タダノ・アメリカ カナダ支店

今後も、海外における販売サービス拠点・部品デポの展開に取り組んでまいります。

◆CREVO G4シリーズ 第一弾70t・25t 第二弾16t 吊りラフテレーンクレーン発売

グッドデザイン賞を受賞した洗練されたデザインと、最先端技術を取り入れた機能により、更なる安全、安心そして効率の追求を目指した最先端クレーン。GR-700N・GR-250Nを2016年10月から、GR-160Nを2017年3月から販売。



GR-700N (G4)



GR-250N (G4)



GR-160N (G4)

【ワイドサイトビュー】

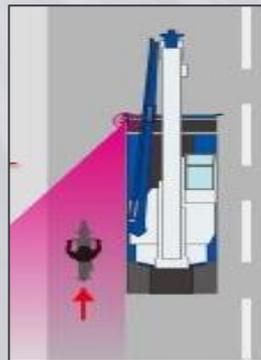
周辺状況を常に認識できる機能を装備



ワイドサイトビューの画像

【ヒューマンアラートシステム】

左側方のバイク・自転車・人物を検知し、警報・ランプで注意を促す機能を装備 (160Nは左前方)



イメージ図 (700N・250N)

【セットアップラジコン】

クレーンの作業準備、片付けを効率的に行う、ラジコンによる支援機能を装備

【その他】

- ・更なる快適性を追求した新型キャブ
- ・操作性を見直した新操作システム
- ・環境に配慮した最新エンジン搭載
- ・新型ジブ装着機能 (700N・250N)
- ・新型2段パワーチルトジブ搭載 (160N)
- ・超低騒音型建設機械指定を取得 (160N)

◆CONEXPO2017開催 アメリカ・ラスベガス

- ・期間は3月7日～11日の5日間、各国から2500社参加、来場者数は世界中から13万人以上
- ・展示機種

AC:3機種 ATF400G ATF110G(New) ATF70G

RC:4機種 GR-1600XL GR-1200XL(New) GR-1000XL GR-150XL(New)

TBC:2機種 GTC-800 GTC-600(New)



◆2016年11月 低温試験棟 完成

ロシア・カナダ北部・北海道等極寒の地と、中東等灼熱の地を想定した、大型製品の実機試験が可能な設備を建設。

概要

場所: 志度事業所内

延床面積: 880.19m² (266.25坪)

室内温度: -40℃から60℃まで設定可能

投資額: 6億8千万円

1F: 試験室、計測室、事務室 2F: 見学室等

試験室: 長さ19.5m 幅10m 高さ13m



低温試験棟 外観



低温での実機試験中

タダノグループ中期経営計画(17-19)

創業1919年8月29日

2019年 タダノは創業100周年を迎えます。

I 部 事業の全体像

- －1. 事業の全体像
- －2. 経営理念
- －3. 企業の社会的責任(CSR)
- －4. ビジョン・コアバリュー
- －5. 事業領域・長期目標
- －6. 事業特性

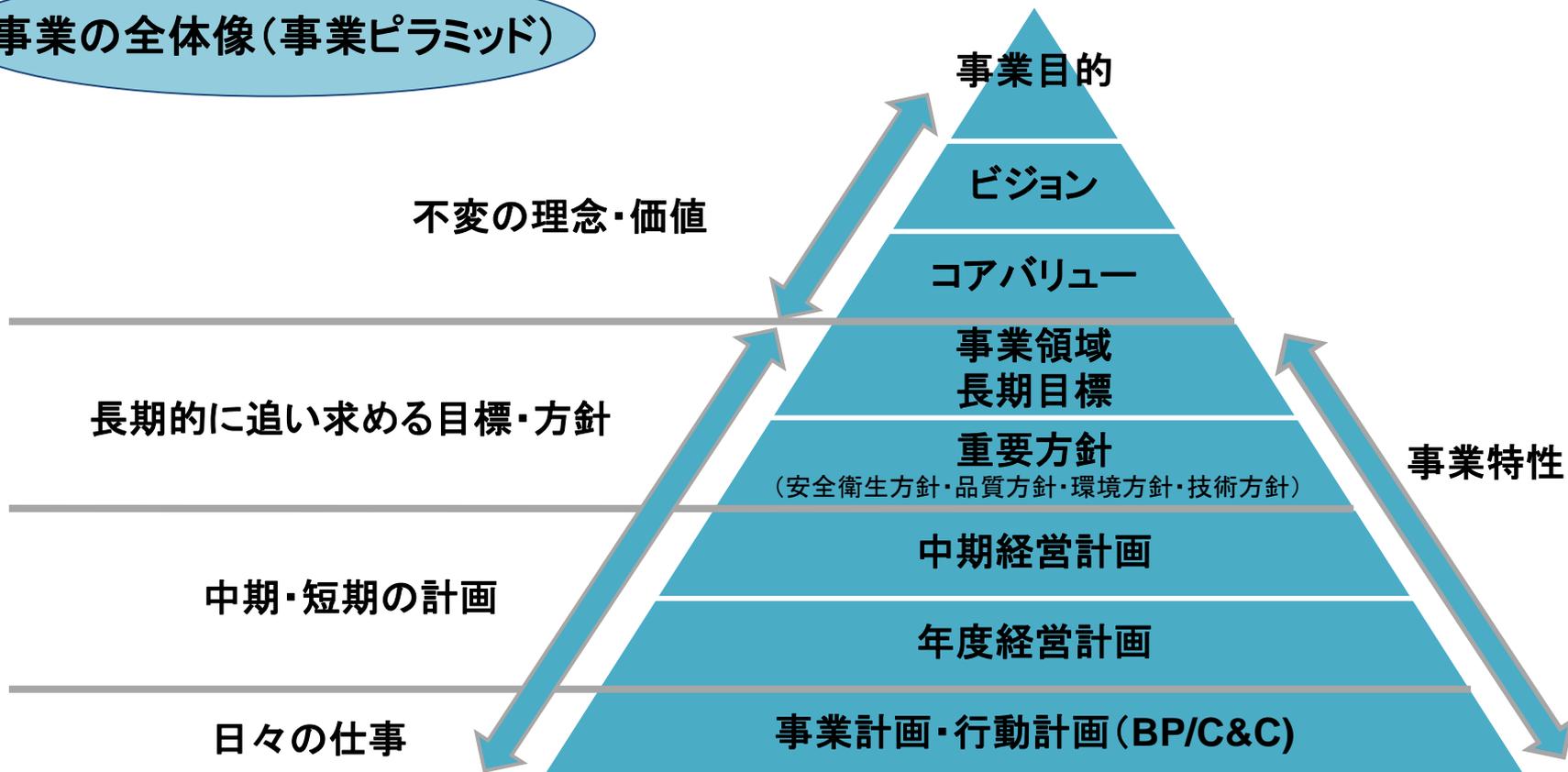
II 部 中期経営計画(17-19)

- －1. 中計(17-19)の位置づけ
- －2. 基本方針・重点テーマ
- －3. 赤い矢印
- －4. 青い矢印と赤い矢印
- －5. 更なるグローバル化
- －6. 耐性アップ
- －7. 競争力強化
- －8. 戦略
- －9. 数値目標

(参考) 創業からの業績推移

I 部 事業の全体像

事業の全体像(事業ピラミッド)



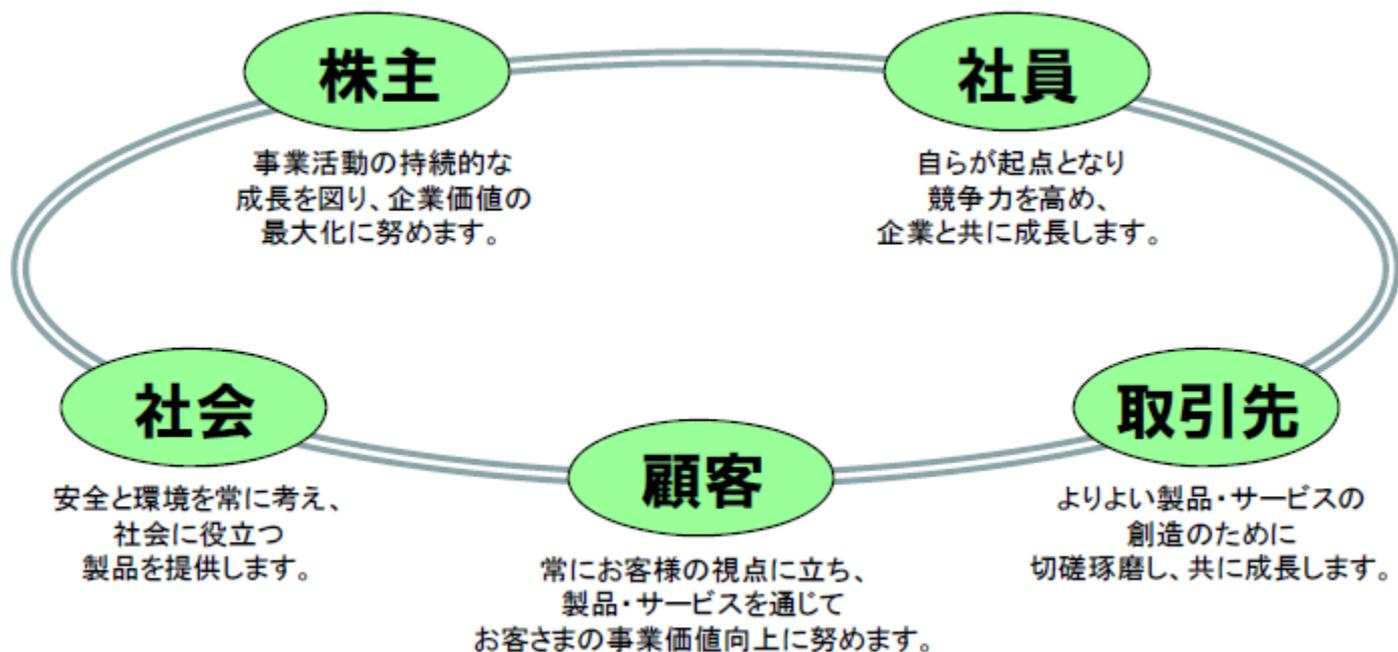
創造 工夫による前進と誇りうる品質のために創造しましょう

奉仕 顧客の利益と住みよい社会の建設のために奉仕しましょう

協力 私達の幸福と堅い心の結びつきのために協力しましょう

私たちタダノグループは、経営理念「創造・奉仕・協力」の実現を【事業目的】と位置づけ、それを「到達点のない永遠に目指すべきゴール」として、より高みを目指します。

全てのステークホルダー(利害関係者)の期待に応え、Win-Win の関係で調和を図り、企業価値を最大化します。



【ビジョン】

世界に、そして未来に誇れる企業を目指して

私たちタダノグループは、

- ・全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を最大化します。
- ・「学習し、成長し続ける組織文化」を構築します。

【コアバリュー】

安全 Safety 【S】 つくる人、扱う人、そして社会の人々の全ての安全を最優先します

品質 Quality 【Q】 質の向上を追求し、製品・サービス・業務の品質を高めます

効率 Efficiency 【E】 業務効率を向上させるとともに、顧客の経営効率改善に寄与します

安全第一・品質第二・効率第三という優先順位はどんな時も変わりません。

但し、三番目の効率を抜きにして企業経営は成り立ちません。

そのためにも「安全第一」・「品質第二」を何としても確保しなければなりません。

【事業領域】

(移動機能付)抗重力・空間作業機械
= Lifting Equipment (LE)

【長期目標】

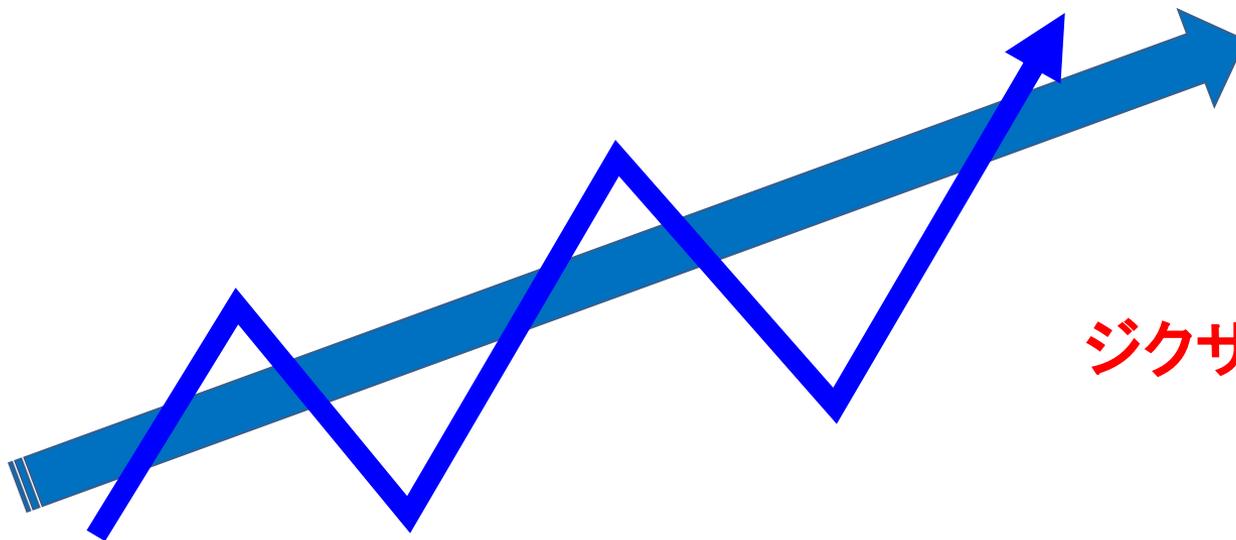
- ・LE世界No.1
- ・海外売上比率 80%
- ・安定的高収益企業(平時の営業利益率 20%)

世界の人口動態を考えれば、LEは成長産業

LE業界もタダノもポテンシャル 大

長期的には右肩上がりだが...

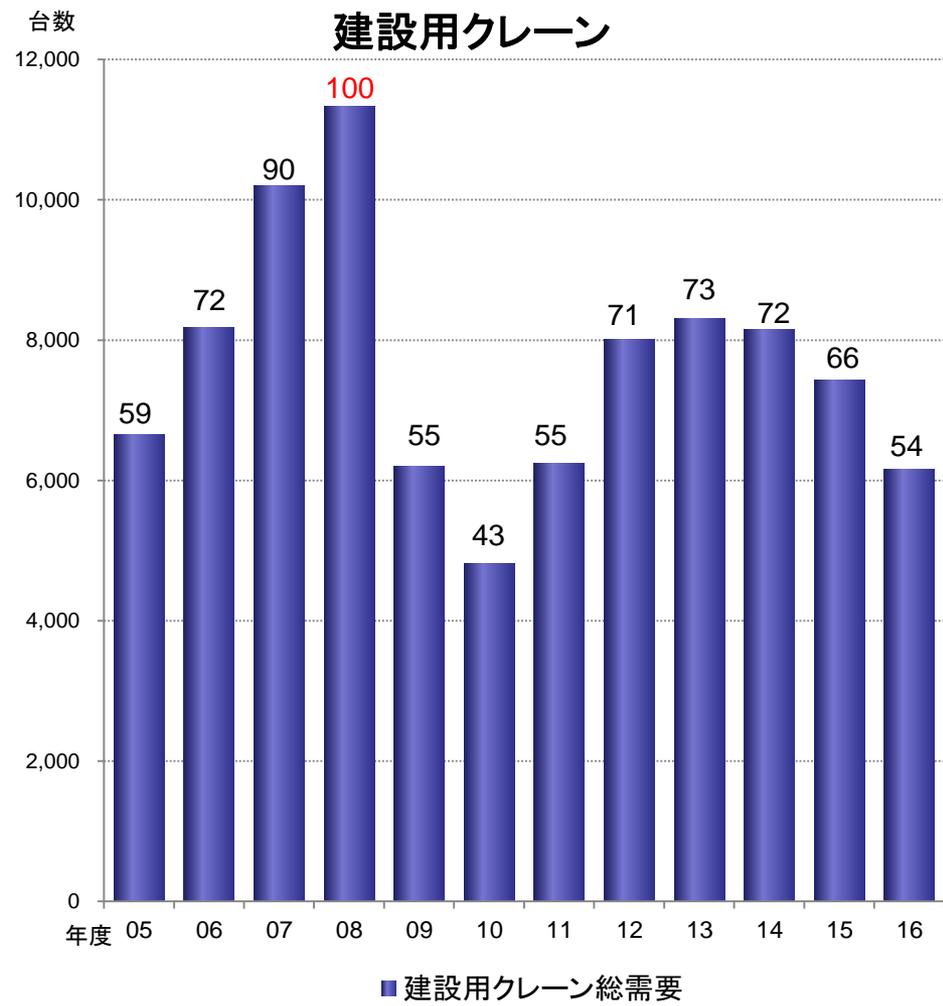
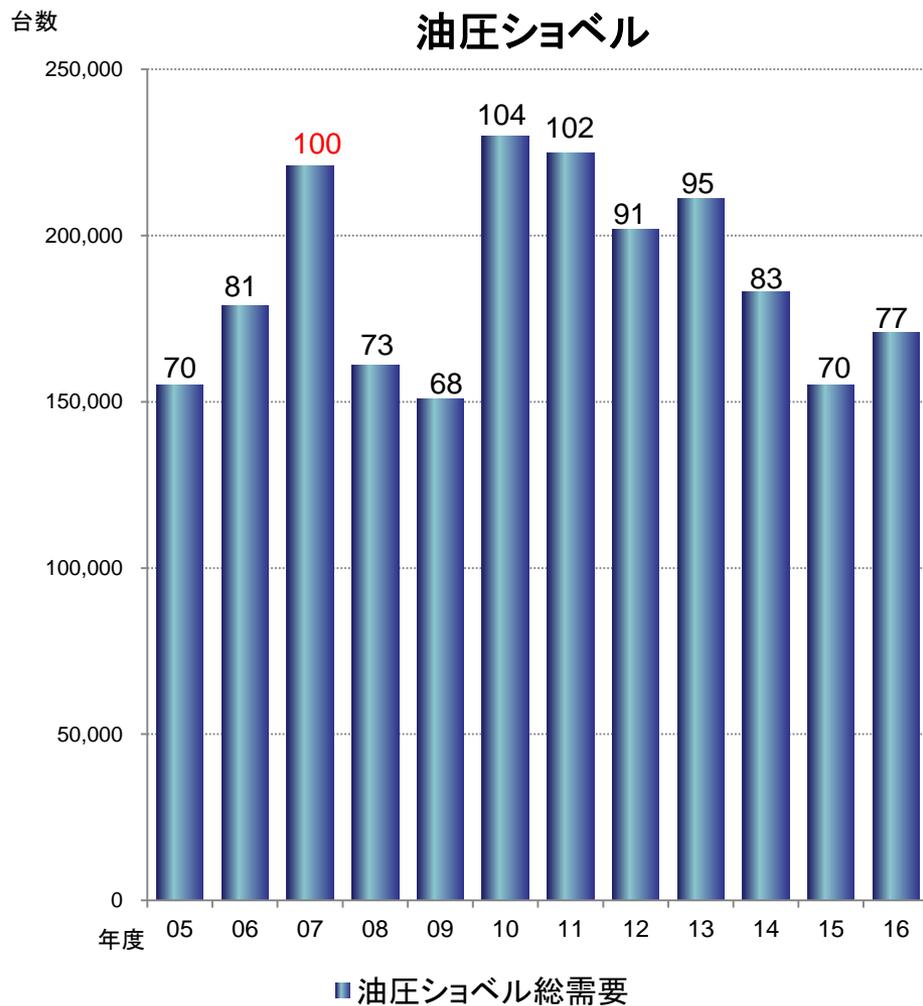
短中期的には需要はUp&Downを繰り返す



ジクザグ走行

▪ 複雑で難しい機械	部品点数	多
	加工精度	高
▪ 需要	山谷の差	大
▪ 部品売上比率		低
▪ 中古車価値		高

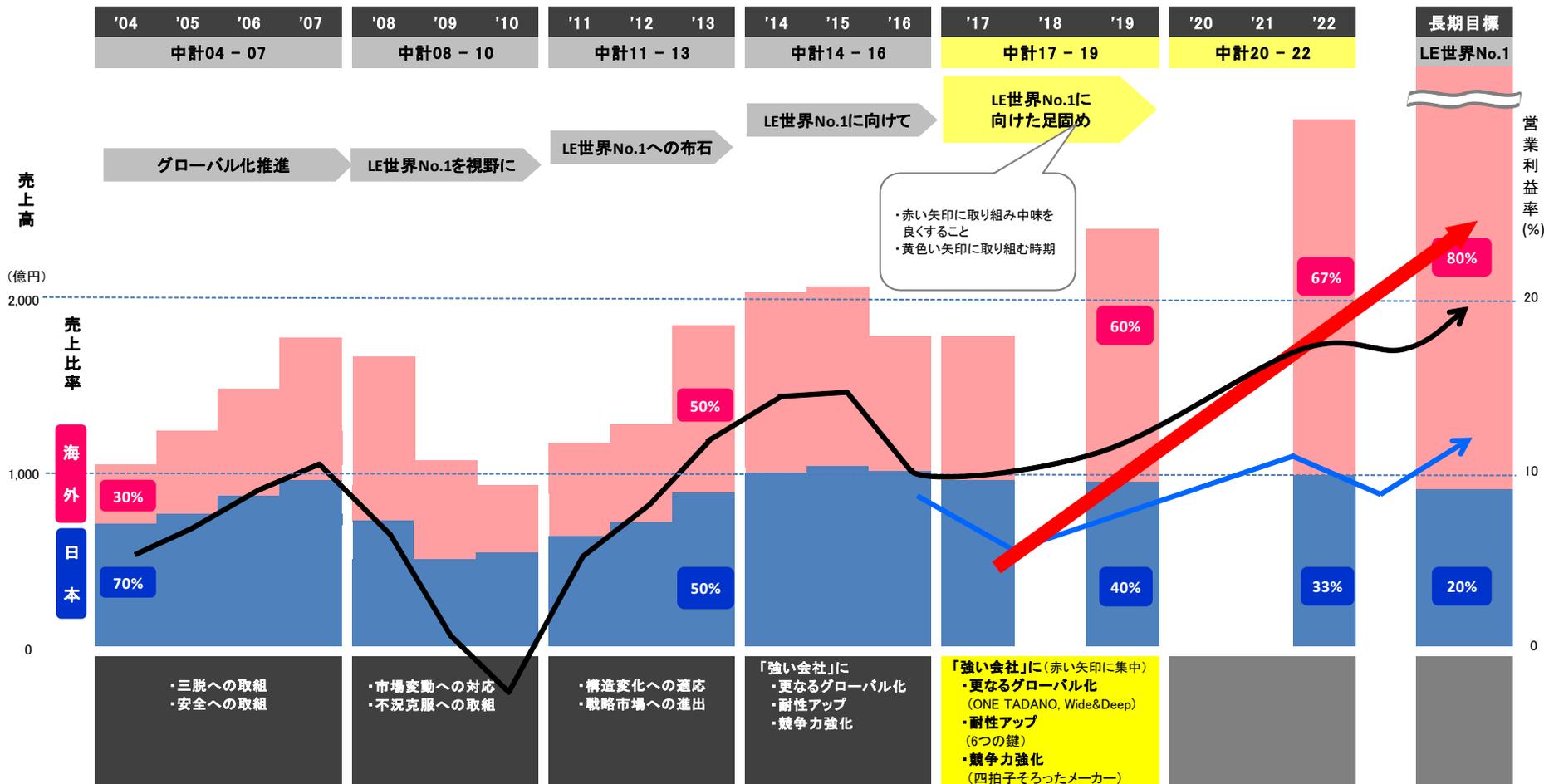
I-6. 事業特性(3) 総需要推移の比較



*当社調べ。建設用クレーンは中国・ロシア国産除く

Ⅱ部 中期経営計画(17-19)

II-1. 中計(17-19)の位置づけ



中計(17-19)基本方針

「強い会社」に(赤い矢印に集中)

「強い会社」とは、いかなる外部環境にありとも、
「利益を出す」・「人を育てる」を毎期継続することができる会社

3つの重点テーマ

- ・更なるグローバル化
(ONE TADANO, Wide & Deep)
- ・耐性アップ
(6つの鍵)
- ・競争力強化
(四拍子そろったメーカー)



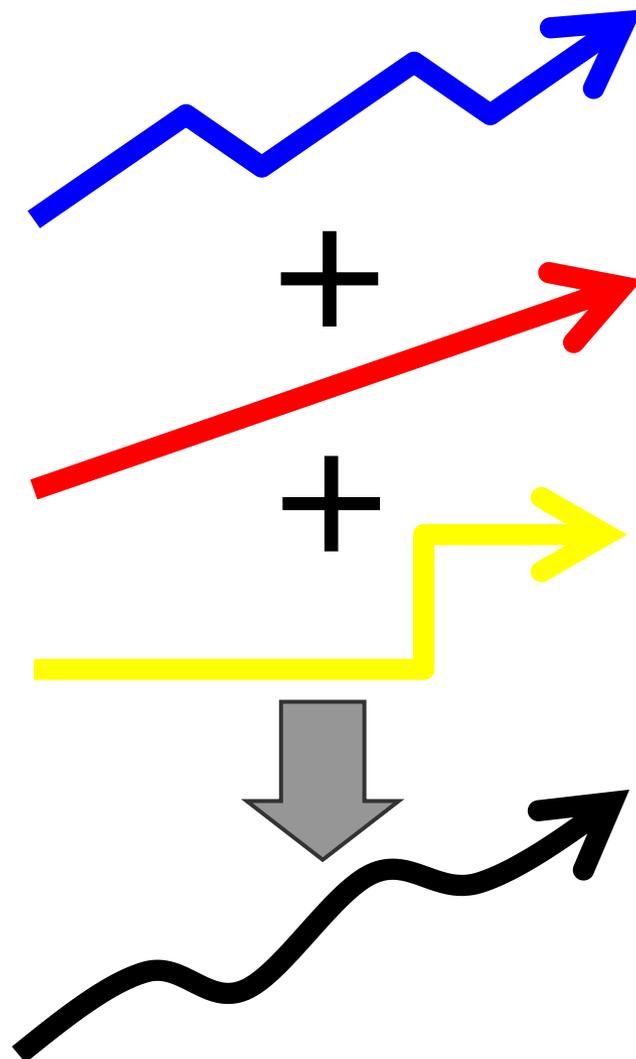
赤い矢印に集中

市場(需要・為替)

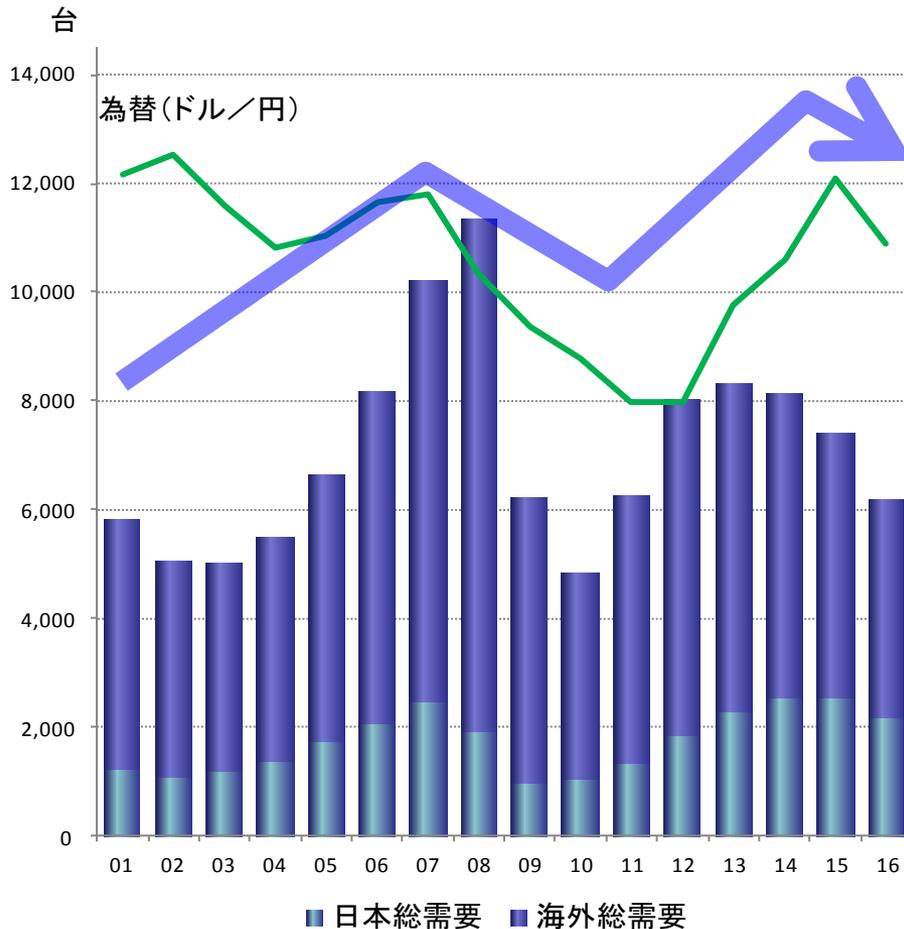
自助努力

投資(新工場・M & A)

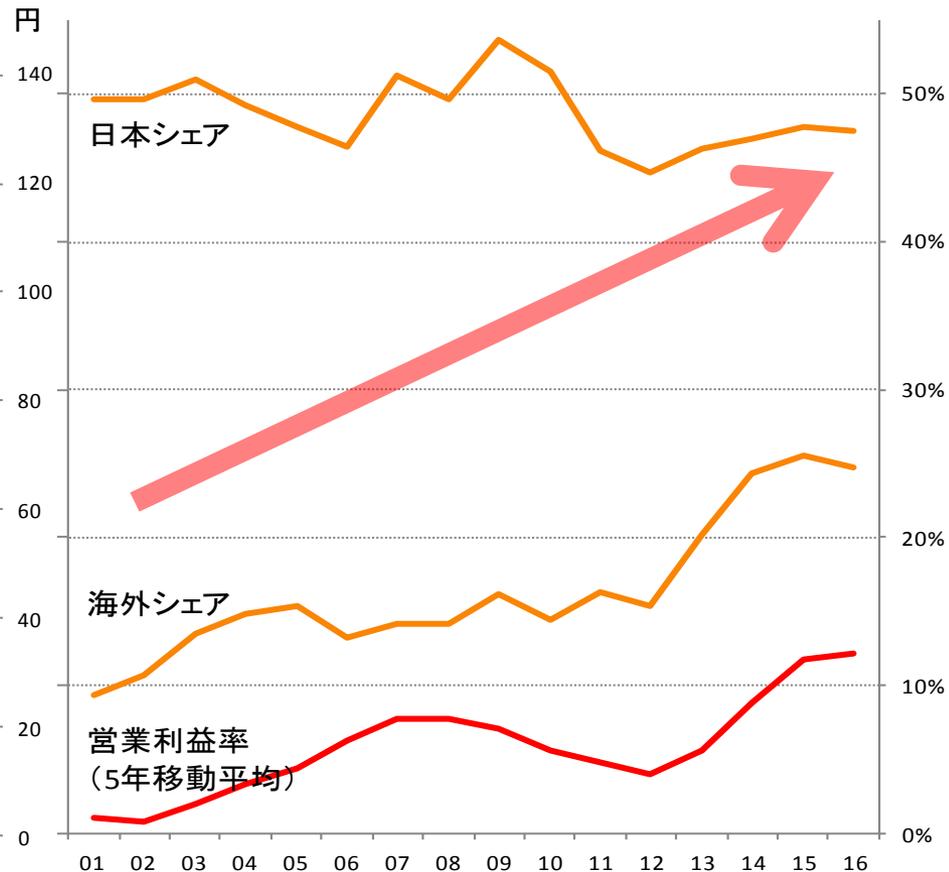
業績



青い矢印(総需要・為替)



赤い矢印(シェア・営業利益率)



ONE TADANO

グループ全体が共通の価値観を持った一つのチームになる

Wide & Deep

広くグローバル展開し、バリューチェーンを深掘りする

6つの鍵

ふところ深く

需要の急激な減少に備えるためにも、常日頃から利益を大切にし利益率を高めること。

身軽に

適正在庫を維持しながらも、たな卸資産を出来る限り圧縮することで、常日頃から身軽にしておくこと。

柔軟性

固定費を可能な限り変動費化するとともに、リードタイムを短縮し、需要の急激な変化に柔軟に対応出来るだけの伸び縮み力を身につけること。

分散

製品セグメント・エリア・販売先や調達先など、各方面で一点集中を避けること。

俊敏

常日頃から感度を高め、予測・準備を怠らず、両様の構えで、常にプランBを用意し何かあれば即時対応できるように体制を整えること。

質の向上

製品品質・業務品質・人質(じんしつ)の向上を図ること。
特に製品品質は企業の総合力そのものであり、維持向上には困難を伴う分、大きな武器となる。

四拍子そろったメーカー

商品力

+

製品品質

+

部品を含めた
サービス力

+

中古車価値

・継続的に磨きこみ、
長期にわたって獲得していく
競争優位性

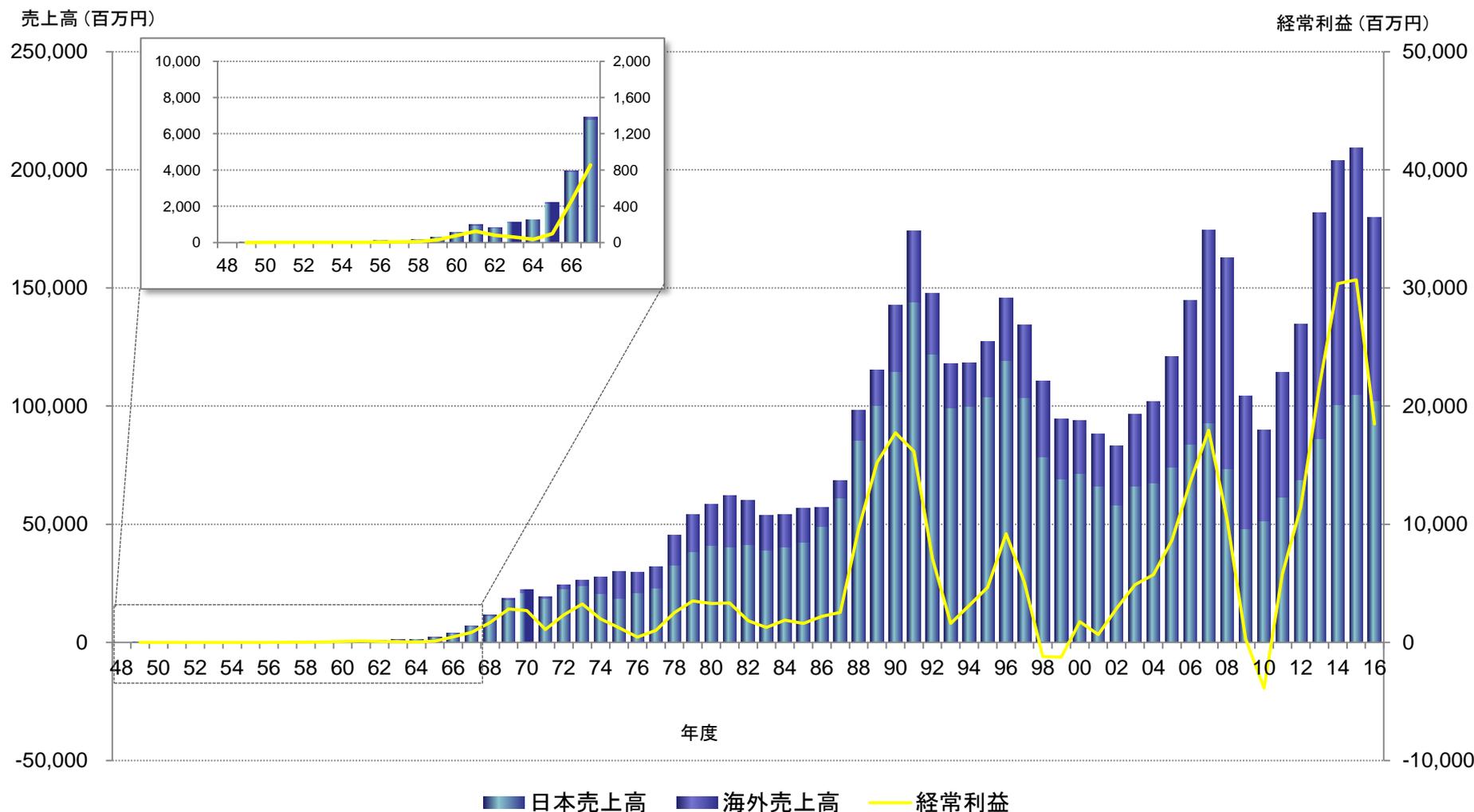
・四拍子そろったメーカーに！

中計(17－19)の戦略

- ① 市場ポジションアップ
- ② 商品力強化
- ③ グローバル&フレキシブルものづくりへの取り組み
- ④ 感動品質・感動サービスの提供
- ⑤ ライフサイクル価値の向上
- ⑥ ソリューションビジネスへの取り組み
- ⑦ 収益力・資産効率のレベルアップ
- ⑧ 成長基盤の確立
- ⑨ グループ&グローバル経営基盤の強化

	16年度	19年度目標	中間目標(22年度)
売上高	1,796億円	2,400億円	3,000億円
日本向け	1,022億円	960億円	1,000億円
海外向け	774億円	1,440億円	2,000億円
海外売上高比率	43.1%	60.0%	66.7%
営業利益	184億円	360億円	500億円
営業利益率	10.3%	15.0%	16.7%
たな卸し資産回転率	3.3回転	4.8回転	
ROA(営業利益/総資産)	7.9%	13.0%	

為替前提: USD110円・EUR120円



・年度は期の開始年を示す 1986年までは9月～8月、1987年は8月～3月の7か月決算(上記は12カ月換算)、1988年以降は4月～3月
・1989年度からはグループ連結決算

ご安全に！